世界 YWCA/世界 YMCA　合同祈祷週

CALLED FOR SUCH A TIME AS THIS

このような時にあって、使命を与えられること

2026 年 11 月 8～14 日



WorldYWCA

WORLD YMCA

Table of Contents

両会長からのメッセージ	3
はじめに	5
第１日：ネヘミヤ：壊れたものを修復する使命	7
第２日： デボラ：勇気をもって導く使命	12
第３目： モーセ：不十分さを超える使命	16
第４日： エステル：希望のために声を上げる使命	21
第５日： アビガイル：平和を追い求める使命	26
第６日： プリスキラ：他者のために力を注ぐ使命	30
第７日： 合同礼拝	34
2027 年 聖書日課	39
謝辞	45

共同メッセージ

世界 YWCA 会長と世界 YMCA 会長から

親愛なる友である皆さまへ

1904 年以来、世界 YWCA と世界 YMCA 同盟は、信仰と地域社会への奉仕という志によって結ばれ、祈りと交わりのうちに集まってきました。この伝統を共有する中で、私たちは、神の声とお互いの声に耳を傾け、私たちの地球規模の交わりの中に力を見出だし、正義と平和への決意を新たにする場を与えられています。

今年のテーマである「このような時にあって、**使命を与えられること**（Called For Such A Time As This）」は、力強いメッセージで私たちを招きます。「**リーダーシップとは影響力であり、誰もがそれを持っている**」。私たちは皆、自分の言葉や選択、そして行動を通じて、他者の人生に影響を与えることができます。家庭や様々な活動の場、そして地域社会において、私たちはその影響力をどのように用いているのか、また、私たちが行動することを選ぶことによって誰の人生が変わり得るのかを深く考えるよう、招かれているのです。

私たちは今週、希望と感謝を携えて集います。同時に、悲しみや不確かさ、そして世界に対する憂慮をも抱えています。戦争、故郷を奪われること、暴力、不平等のただなかにある共同体、また、人々の命と尊厳を守るために尽力しているすべての人々のために、私たちは祈りを捧げます。直面する課題のあまりの大きさに、自分は何を差し出せばいいのだろうかと途方に暮れることもあるかもしれません。しかし神は、そのような不確かさの中にあっても私たちと出会い、互いに支え合いながら、自らに与えられた賜物（たまもの）をもって応えるよう招いておられるのです。

この冊子に登場する 6 人の聖書の中のリーダーたちは、その「呼びかけ」に応える多様な方法を私たちに示してくれます。**ネヘミヤ**は、壊れた現実に、祈りと共同の行動をもって応えます。**デボラ**は勇気を持って人々を導き、**モーセ**は、自分には力不足だという思いがあっても、神の目的から外れるわけではないことを知ります。**エステル**は自らの立場を活かして同胞のために声を上げ、**アビガイル**は暴力を食い止めるために介入します。そして**プリスキラ**は、自らの知識を分かち合うことで、他者の働きを力づけました。この 6 人の物語は、私たち自身の人生においても、リーダーシップを発揮する機会があることに気づくよう、私たちを招いています。

私たちの運動体にとって、この招きは、他者のリーダーシップを育むという責任をも伴うものです。人々は、私たちの共同体が必要とする知恵や経験、そしてビジョンをもたらしてくれます。その人たちが共に築く未来を形作っていくための場やリソース、そして意思決定の権限を確実に持てるよう、私たちは努めなければなりません。世代を超えた関わり合いを通じて、私たちはお互いから学び合い、責任を分かち合い、信仰と奉仕において共に成長していくことができるのです。

この祈祷週間の間、皆さんに一つのシンプルな問いを心に留めていただきたいと願っています。それは、「**自分自身の持つ影響力を、どのようにして他者の益となるよう用いるか**」という問いです。不公正に対して声を上げること、自分とは異なる経験を持つ人の話に耳を傾けること、若きリーダーを支えること、あるいは和解に向けた一歩を踏み出すこと――そうした行動が、その答えとなるかもしれません。私たちの祈りが、他者への思いやりを深め、人間の尊厳を守り、平等を推進し、平和を築く行動へと私たちを突き動かすものとなりますように。

YWCA や YMCA のコミュニティを、しばしば人目につかない形での誠実な奉仕によって支えてくださっているすべての方々に、感謝します。この一週間が、疲れを感じている方には励ましを、孤独を感じている方には寄り添う温もりを、そして変化をもたらそうと志す方々すべてに新たな勇気をもたらすものとなりますように。
私たちが謙虚に導き、愛をもって行動し、自らの影響力を賢明に行使できるよう、神が導いてくださいますように。
まさに今このようなときの呼びかけに、共に応えることができますように。

世界 YWCA 会長　ミラ・リゼック　／　　世界 YMCA 会長　クリストファー・ルイス

はじめに

変革をもたらす一週間に、ぜひご参加ください！

世界 YWCA と世界 YMCA は、1904 年以来、「祈りと世界的な交わりの週間（Week of Prayer and World Fellowship）」を共同で開催してきました。この小冊子を手に、2026 年 11 月 8 日から 14 日までの期間、ぜひご参加ください。日々の黙想をご自身で行ったり、少人数のグループで集まったり、あるいは YWCA や YMCA の活動に年間を通してこの資料を活用していただくこともできます。このプログラムは、6 日間の日々の黙想と、7 日目に行う任意の合同礼拝で構成されています。

今年のテーマについて

リーダーであるために、肩書きは必要ありません。リーダーシップとは「影響力」のことであり、誰もがそれを備えています。リーダーシップとは、他者のための場を創り出し、権限を分かち合い、不公正に立ち向かい、地域社会を変革するために共に働くことなのです。

今年の祈祷週の資料は、**あなたが神から与えられている影響力をどのように用い**、家族、YWCA や YMCA のグループ、地域社会、そしてより広い世界に変化をもたらすことができるか、思いを巡らすようあなたを招いています。聖書に登場する 7 人のリーダー（男性 3 人、女性 4 人）の物語を通して、私たちは**「この時のためにこそ」**（エステル記 4 章 14 節）呼ばれていることを再認識させられます。

神は私たち一人ひとりに、自らの影響力を良い方向で用いるよう呼びかけておられます。それは、デボラのように勇敢に導き、ネヘミヤのように壊れたものを修復し、エステルのように正義を求め、アビガイルのように平和を追求し、プリスキラのように他者のために力を注ぎ、そしてモーセのように自らの力不足を抱えながらも導くことです。

これらの指導者たちは、決して一人で働いたわけではありません。ネヘミヤは、自身の掲げる「回復」というビジョンに加わるよう共同体を動かしました。モーセは、自分にはない賜物を持つアロンやミリアムの助けを得ました。またプリスキラは、アキラ、パウロ、アポロらと協力して福音を広めました。**聖書におけるリーダーシップとは、世代を超えて共有されるものであり、集団的な営みです。そこでは、世代を超えた権限の分かち合いと、互いに対する説明責任が求められます。**

世代を超えた集団的リーダーシップを通じて、YWCA と YMCA の運動は、**変革を推進し、希望を鼓舞し続けることが求められています。**それは、世界が今までにも増して必要としているものです。

本書の使い方

1 日目〜6 日目

最初の 6 日間は、それぞれ次のような構成で進められます。

- 導入– 背景や文脈を理解するために
- 聖書– 神とのつながりを深めるための聖書朗読[※注 1]
- リーダーシップの学び– 聖書をどう読み解き、私たち自身の人生やリーダーシップの旅路にどう当てはめるかについての熟考
- 考察 – グループでの話し合いや個人のジャーナリング（記録）のための問いかけ
- 応答 – 祈り（ユースグループや個人で取り組める、任意の創造的なアクティビティも含む）
- 重要点のまとめ – 学びの要点のまとめ

この資料は、YWCA や YMCA のグループの活動に合わせて自由にアレンジしてご活用ください。たとえば、夜の集いの締めくくりに行う振り返りの時間や、リーダーシップ研修の一部として使うことができます。グループを進行する方は、事前に資料を読み、祈り、準備を整えた上で、聖書の箇所や祈りの言葉などをメンバーに朗読してもらうようにするとよいでしょう。なお、このリソースは、祈祷週の期間中だけでなく、一年を通していつでも活用できることをご記憶ください。

7 日目

YWCA や YMCA によっては、祈祷週の締めくくりとして合同礼拝を行うところもあります。地域の状況に合わせた礼拝を計画するのに役立つよう、構成案を用意しました。自由に、創造的にアレンジしてみてください。

2027 年 聖書通読プラン

この冊子の最後のセクションには、一年を通して聖書を読むための 2027 年版通読プランが掲載されています。

皆様からのご連絡をお待ちしております！

祈祷週の期間中やその準備期間に、ハッシュタグ #WWOP26 を使って、皆さんの計画や証し、個人やグループでの振り返りなどをぜひシェアしてください。

また、World YWCA や World YMCA をフォローして、オンラインで発信される素晴らしいコンテンツから励ましやインスピレーションを受け取ってください。是非とも自由にシェアしてください。リーダーシップを発揮し、回復と再建に取り組み、社会正義を追求するために、それぞれの持つ影響力を活かすよう、互いに励まし合っていきましょう。

編集責任者 クレア・ラッシュ博士

注[1] 新改訂標準訳 更新版(New Revised Standard Version Updated Edition、NRSV) 《訳注》日本語版は新共同訳聖書を使用

第１日
ネヘミヤ：壊れたものを修復する使命

はじめに

2010 年、私はカンボジアのゴミ捨て場に立ち、学校には通わず、売るための金属を拾い集める少女たちの姿を目の当たりにしました。私の心に小さな火花が揺らめきました。それから２年後、コソボのある家で、学校へ向かう途中に誘拐や人身売買からかろうじて逃れたという若い女性たちの話を聞きました。あの時の火花は、炎になりました。

この壊れた現実は、あってはならないことです。これは神が意図されたことではありません。

その炎は、私の心の中で深い「聖なる不満」[注2]へと燃え上がっていきました。

聖なる不満とは、現状の世界と神が意図される世界との隔たりに対する、神から与えられた不満足感のことです。それはリーダーを、重荷から祈りへ、祈りからビジョンへ、そしてビジョンから行動へと動かします。

ネヘミヤも同じ聖なる不満を経験しました。彼は壊れた現実を見て、それを自分の重荷として受け入れ、神を求め、ビジョンを与えられ、人々を奮い立たせ、破壊されたものを再建しました。

ネヘミヤの心に重くのしかかっていたのは、エルサレムの城壁の荒れ果てた状況でした。紀元前 586 年頃、ネブカドネザル２世率いるバビロンがエルサレムを征服し、都と神殿を破壊し、城壁と城門を打ち壊しました（列王記下 25 章 8–10 節、歴代誌下 36 章 17–19 節）。ユダヤの人々は捕囚の身となりましたが、後にペルシアがバビロンを征服すると、キュロス王によって帰還が許されました。神殿は再建されたものの、都の城壁は廃墟のままでした。

崩れ落ちた城壁はユダヤの人々にとって不正義でした。なぜなら、城壁は保護、安全、そして安定をもたらすものだったからです。城壁がなければ、人々は攻撃に対して無防備です。また、エルサレムはイスラエルの生活の中心地であったため、城壁は彼らの尊厳とアイデンティティを象徴するものでもありました。

神は、エルサレムの城壁を再建するというビジョンを奮い起こすために、ネヘミヤが抱いた「聖なる不満」を用いられました。同様に神は、私の抱いた「聖なる不満」を用いて、少女たちが神の創造された通りに自由に成長していける世界を築くというビジョンを、私の中に形作られました。そのビジョンに導かれ、私は少女や若い女性たちを支え、力づけるための団体や運動で奉仕し、プロジェクトやイベント、様々な取り組みを主導してきました。

注２＞　このコンセプトは、キリスト教神学で一般的な表現である「義憤（righteous indignation）」に類するものです。というのは両者とも、神への、そして隣人への愛から生じるものだからです。しかしながら、憤りとは通常、罪や不正義に直面して即時の拒否反応（出エジプト記 32 にて黄金の子羊を目にしたモーセが怒りに燃えて石板を壊したこと、４つの福音書すべてに記された、イエスが神殿を清めた行動）である一方、不満とはもっと長く続く居心地の悪さであって、祈りやビジョン、行動につながるものです（英訳者注）

神は、ある目的のためにあなたを今の場所に置かれました。私たちの周りには、女性に対する暴力、差別、ホームレス問題といった不公正があります。神は、あなたに与えられている賜物や経験を用いて、神の回復の働きに加わるよう、あなたを招いておられます。

ネヘミヤの物語を深く掘り下げ、神があなたの人生において、どのような「聖なる不満」を呼び起こそうとしておられるのか、考えてみましょう。

聖書

旧約聖書 ネヘミヤ記 1章3-4節

3 彼らはこう答えた。「捕囚の生き残りで、この州に残っている人々は、大きな不幸の中にあって、恥辱を受けています。エルサレムの城壁は打ち破られ、城門は焼け落ちたままです。」4 これを聞いて、わたしは座り込んで泣き、幾日も嘆き、食を断ち、天にいます神に祈りをささげた。

旧約聖書 ネヘミヤ記 2章17-18節

17 やがてわたしは彼らに言った。「御覧のとおり、わたしたちは不幸の中であえいでいる。エルサレムは荒廃し、城門は焼け落ちたままだ。エルサレムの城壁を建て直そうではないか。そうすれば、もう恥ずかしいことはない。」18 神の御手が恵み深くわたしを守り、王がわたしに言ってくれた言葉を彼らに告げると、彼らは「早速、建築に取りかかろう」と応じ、この良い企てに奮い立った。

旧約聖書 ネヘミヤ記4:6（新共同訳聖書では 3:38）

6わたしたちは城壁の再建を始め、その全長にわたって高さの半分まで築いた。民には働く意欲があった。

リーダーシップの学び

１．あなたの「聖なる不満」を、行動への招きとしましょう

エルサレムの城壁が崩れ落ちていると聞いたとき、ネヘミヤは深く心を痛め、幾日も嘆き悲しみました（ネヘミヤ記1章3-4節より）。
このことは極めて重要です。なぜなら、当時のネヘミヤは王の献酌官（けんしゃくかん）を務めていたからです。彼はペルシャの宮廷において信頼と責任を伴う地位にあり、常に落ち着いた態度で職務を遂行することが求められていました。王の前で動揺や苦悩を露わにすることは、自らの命を危うくしかねないことでした。それにもかかわらず、同胞の苦しみは彼の心を強く揺さぶり、何事もなかったかのように振る舞い続けることはできなかったのです。
彼の抱いた悲しみを、彼は自分に与えられた重荷として引き受け、それが彼を行動へと駆り立てました。

あなたにとっての「聖なる不満」とは何でしょうか。あなたの地域社会において、もはや見て見ぬふりのできない不公正とは何でしょうか。

神があなたの内に呼び起こしておられるかもしれないその「聖なる不満」は、行動を起こし、神の回復の働きに加わ

るようにとの招きなのです。

２．祈りの中で身を委ねる

神から与えられるビジョンは、単なる苛立ちや野心、あるいは事態を早急に解決したいという思いに突き動かされるのではなく、祈りの中で育まれます。エルサレムに関する知らせを聞いた際、ネヘミヤが最初にしたことは、すぐに戦略を練ったり王に働きかけたりすることではありませんでした。彼は立ち止まり、嘆き悲しみ、断食し、祈りの中で神を求めたのです（ネヘミヤ記 1 章 4〜11 節より）。

ネヘミヤは、真の必要性を見極めつつ、それに対してどう対応すべきかについて神の知恵を求めることによって、真の霊的リーダーシップを示しています。神への祈りにも、彼の謙遜さが表れています。彼は神の性格と誠実さを認め、罪を告白し、神の約束を心に留めた上で、これから踏み出そうとする一歩のために、神の恵みと知恵を求めたのです。したがって彼の描いたビジョンは、単に自分の能力や決意に基づくものではなく、神との関係に根ざしていたのです。祈りによって、私たちは自分の思惑を神に委ね、ビジョンと、必要に対する応え方を神に形作っていただくことができるのです。

３．ビジョンは、現在の状況に関する重荷を、未来への希望へと変えるものです。

ネヘミヤは、耳にした荒廃した状況にただ心を奪われたり、それについて延々と不平を言い続けたりはしませんでした。彼が自分のものとして受け取った重荷は、やがて回復へのビジョンとなりました。ネヘミヤは壊れている現実を目の当たりにしましたが、それが物語の終わりである必要はないことを知っていました。

ビジョンによって私たちは、現在を正直に見つめると同時に、将来どのような可能性があり得るかを思い描くことができます。それは苦しみや不公正という現実を否定するものではなく、むしろ「回復とはどのようなものになり得るか」を問いかけるものです。ネヘミヤは、エルサレムの荒廃を認めながらも、神の助けがあれば城壁を再建できると信じることができました。

同様に、神は私たちに「ビジョン」を与えてくださることがあります。それは、最初は私たちを悩ませることから始まりますが、やがて、私たちが回復を強く願う姿へと発展していくものです。貧困への懸念は、尊厳と機会へのビジョンになり得ます。孤独という重荷は、真の共同体へのビジョンになり得ます。ジェンダー不公正への懸念は、より大きな公平さと平等へのビジョンになり得ます。

ネヘミヤは、共に再建しようと呼びかけ、やがてこのビジョンのもとに人々を集めました。彼が個人的に受け止めていた重荷は、分かち合うビジョンとなり、最終的には回復に向けた集団的な運動となったのです。

YWCA と YMCA の運動理念に沿えば、持続可能な変革は、不公正を経験している人々を見つめ、その声に耳を傾け、その人たちのリーダーシップを認め、自分たちがその人たちの必要を分かっていると決めつけるのではなく、地域社会と協働することから始まります。

思い巡らせてみましょう（考察）

1. あなたの周囲にあるどのような状況、必要、あるいは「壊れた城壁」が、今、あなたに深い重荷や「聖なる不満」を抱かせているでしょうか。
2. 自分の地域社会や周囲の世界に、どのような変化が起こることを切に願っていますか。
3. ビジョンを見つけ、それを育んでいく上で、祈りの中で委ねることがどのように助けとなるでしょうか。
4. どのような妨げや恐れ、あるいは反対が、そのビジョンの追求を阻む可能性があるでしょうか。また、そのような中でもなお忠実さと忍耐深さを保つとは、どのようなことでしょうか。

応答

れんが・チャレンジ

用意するもの：地域の地図、付箋、紙、ペン、貼って剥がせる粘着剤。

床に地域の地図を広げ、全員に付箋を配ります。地域社会の中で「壊れている（修復や改善が必要な）」場所や問題について思いを巡らせ、それを付箋に書き込んで地図上に貼るよう促します。

ネヘミヤ記の物語と関連付けながら、地域における不公正な問題について話し合いを導きます。そして、ホームレス問題、性差別、ゴミのポイ捨て、差別など、取り組みたい分野や問題を一つ選ぶよう、グループに呼びかけます。

参加する若者一人ひとりに紙の「レンガ」を渡し、この不公正な状況の変革に貢献できるよう、地域社会で何か前向きなものを築くために自分ができることを一つ書いてもらいます。その後、それぞれのレンガを組み合わせて一つの「壁」を作ります。

この活動を、ネヘミヤの物語と結びつけてみましょう。この物語は、変革が一人の行動だけで成し遂げられることは稀であると教えてくれます。エルサレムの再建には多くの人々が必要で、一人ひとりがその働きに貢献しました。より大きなビジョンに向かって共に取り組むとき、一つのレンガが重要な意味を持つのです。

祈り

愛する主よ
ネヘミヤのように、壊れているものを見つめる目と、あなたにとって大切なことを自分の重荷と受け止める心、そしてそれに応える勇気を私たちに与えてください。祈りの中で重荷をあなたに委ね、あなたの導きをはっきりと聞き取り、ビジョンを行動に移す知恵を持てるよう助けてください。人々を導く信仰、他者を巻き込む謙遜さ、そして反対に直面した時の忍耐力を与えてください。壊れたものを再建し、あなたの御名に栄光を帰すために、私たちを用いてください。　　アーメン。

重要点のまとめ

- ネヘミヤはエルサレムの壊れた城壁を目の当たりにし、その状況を自らの心の重荷として受け止めました。あるべき姿とは異なる現実に対して深く憂慮するとき、しばしばそこから「ビジョン」が生まれます。
- 祈りを通して、私たちは自分の思惑を神に委ね、ビジョンや、必要性に対する応え方を神に形作っていただくことができます。
- ネヘミヤは、単に「現状」を見るだけでなく、「あり得るはずの姿」を見つめるようになりました。ビジョンとは、現在についての重荷を、未来への希望へと変えるものです。
- ネヘミヤはビジョンを伝え、人々を巻き込み、反対意見に立ち向かい、焦点を保ち続けました。リーダーシップは、人々が当事者意識を持って共に粘り強く進むよう励まし促すことで、ビジョンを現実のものにするのです。

第 2 日
デボラ：勇気をもって導く使命

導入

「勇気を持つのです、愛しい子よ」

これは、名作ファンタジー小説『ナルニア国物語』の一編『朝びらき丸 東の海へ』の中で、ナルニア国の支配者である偉大な「言葉を話すライオン」、アスランが、少女ルーシー・ペベンシーを励ますためにかけた言葉です。物語の中で、ルーシーと旅の仲間たちは、「夢が現実になる島」を取り巻く深い闇の中へと船を進めます。それは、最悪の悪夢が現実になってしまう恐ろしい場所です。乗組員たちがパニックに陥り、脱出しようともがく中、ルーシーはアスランに助けを求めます。すると即座にアホウドリが舞い降り、船に先立って飛び、闇から導き出してくれます。そして、静かにルーシーにこう囁くのです。「勇気を持つのです、愛しい子よ」と。

自分が情熱を注ぐ課題のために立ち上がり、声を上げる前に、私たちは何度こうした励ましの言葉を耳にする必要があるのでしょうか。抑圧的な権力構造の変革や気候に害を及ぼす活動への反対、そしてあらゆる形の不公正を終わらせることに関心をもつ若いリーダーとして、私たちは時に反対と無関心の両方に直面することがあります。ネヘミヤのように「より良い未来」を夢見たり、モーセのように神の呼び出しに素直に従って一歩を踏み出したりする力があったとしても、そこに「勇気」が伴わなければ、有意義な変化はほとんど生まれません。勇気とは、恐れを乗り越え、ビジョンを行動に移し、光が見えるまで暗闇の中を突き進むことを可能にする、リーダーに不可欠な資質なのです。

今日の聖書の箇所では、神の民が、それぞれの暗い苦難の時を過ごしています。彼らは 20 年もの間、カナン王ヤビンによる過酷な抑圧を経験してきました。神に従わなかった結果、イスラエルの民は異国の支配者から守ってくださる神の加護を失っていました。彼らは、カナンの軍勢と 900 台もの鉄の戦車が持つ強大な力に脅かされています。そのような状況の中で主はデボラを選び、民を率いて敵から救い出す役割をお与えになるのです。知恵ある士師 (裁き人、旧約聖書における指導者) であり、神に油を注がれた (聖別された) 預言者である彼女は、自分の世代に向けられた主の言葉に耳を傾け、確信を持ってそれを人々に伝えます。彼女の物語は私たちに教えてくれます。勇気あるリーダーシップとは、大胆に声を上げ、他者がためらう中で率先して行動し、そして神の目的のために立ち上がるとき、『ナルニア国物語』のアホウドリのように、主なる神が私たちの先頭に立って進んでくださると確信することなのだと。

聖書

旧約聖書　士師記 4 章 4 節～10 節

4 ラピドトの妻、女預言者デボラが、士師としてイスラエルを裁くようになったのはそのころである。 5 彼女は、エフライム山地のラマとベテルの間にあるデボラのなつめやしの木の下に座を定め、イスラエルの人々はその彼女に裁きを求めて上ることにしていた。

6 さて、彼女は人を遣わして、ナフタリのケデシュからアビノアムの子バラクを呼び寄せて言った。「イスラエルの神、
主がお命じになったではありませんか。『行け、ナフタリ人とゼブルン人一万を動員し、タボル山に集結させよ。 7 わ
たしはヤビンの将軍シセラとその戦車、軍勢をお前に対してキション川に集結させる。わたしは彼をお前の手に渡す』
と。」 8 バラクはデボラに言った。「あなたが共に来てくださるなら、行きます。もし来てくださらないなら、わたし
は行きません。」 9 デボラは、「わたしも一緒に行きます。ただし今回の出陣で、あなたは栄誉を自分のものとするこ
とはできません。主は女の手にシセラを売り渡されるからです」と答え、直ちにバラクと共にケデシュに向かった。
10 バラクはゼブルンとナフタリをケデシュに召集した。一万人が彼に従って上り、彼と共にデボラも上った。

士師記５章７節
7 村々は絶えた。イスラエルにこれらは絶えた。
わたしデボラはついに立ち上がった。
イスラエルの母なるわたしは
ついに立ち上がった。

リーダーシップの学び

１．支配的な権力構造に立ち向かう

伝統的な家父長制社会において、デボラは当時の文化的ステレオタイプや支配的な権力構造に逆らって導きました。彼女の物語は、聖書の中で「女性によるこうした形の指導力を描いた最古の記述」注[2]であり、彼女は『士師記』に登場する唯一の女性士師 (指導者) です。したがってデボラは、予期されなかった指導者として登場するのです。深い知恵と誠実さを備えた女性であった彼女は、イスラエルの人々から尊敬され、人々は争いごとを解決してもらうために、エフライムにいる彼女のもとへ遠方から足を運びました。主の信頼厚き代弁者として、彼女は男女を問わず宗教的にも政治的にも影響力を持ち、国家を代表して大胆な決断を下しました。デボラは、支配的な文化的期待に屈することなく、自身の能力や人格、そして神が彼女の人生に与えられた使命への招きに基づき、ありのままの自分で人々を導いたのです。彼女の物語は、誰が行動し、発言し、指導する立場に就けるかを制限する既存の通念に立ち向かい、そうしたステレオタイプを勇気を持って打ち破るよう、私たちを鼓舞しています。

２．長引く無為無策に直面しても、声を上げる

デボラは神の声をはっきりと聞き取り、即座に行動を起こしました。彼女はイスラエルの軍司令官バラクを直ちに呼び寄せ、主なる神の指示を伝え、彼らの最終的な勝利を預言しました。士師記５章７節において、彼女は「イスラエルの母」と称されています。20 年にも及ぶ無策と抑圧、そして恐怖の状態からイスラエルの人々を救い出すために、まさに「このような時のため」、彼女が「立ち上がった」からです。デボラは、国に生じていた指導者の不在という空白に進んで足を踏み入れ、主から与えられた「解放」というビジョンの実現に向けて尽力しました。根強い問題に直面したとき、多くの人はためらったり、立ちすくんだり、不平を言ったりするかもしれません。あるいは、その状況を絶望的だとか、あまりに困難だとか、恐ろしいものだと言い切るかもしれません。しかし、勇気あるリーダーは、自ら率先して行動を起こし、決断を下し、前進していくよう、神に呼ばれているのです。

３．協力し合う勇気をもつ

デボラはチームワークを恐れることなく、軍の将軍バラクと誠実に協力し、自分の預言した勝利を実現へと導きました。彼女はカナン人との戦いに勝利するためには、将軍であり兵士でもあるバラクの能力が不可欠であることを認め、一方のバラクもまた、デボラの知恵と宗教的指導者としての権威を強く必要としていました。2 人の性別を超えたパートナーシップは、互いへの尊敬と依存の上に築かれており、私たちの YWCA・YMCA 運動に、共にあることでより強くなれることを、改めて教えてくれます。私たちは、それぞれの強みと弱みを認めることで、集団としての能力や専門性を最大限に活かし、平和、正義、人権という共通の目標に向かって、互いに頼り合うパートナーシップを築いていくことができるのです。

４．神の存在の力に確信をもつ

デボラは、主なる神がイスラエルの軍勢の先頭に立たれるならば、勝利が得られると確信していました。バラクは、デボラが持つ宗教的指導者としての権威と、神の言葉を伝える者としての役割を認め、彼女が同行しない限り戦おうとはしませんでした。「もし、あなたが私と一緒に来てくれるなら、私も行きます。しかし、あなたが一緒に来てくれないのなら、私は行きません」（士師記 4 章 8 節）。これは、モーセがイスラエルの民をカナンの地へと導く前に、主に訴えた言葉を思い起こさせます。「もし、あなたご自身が一緒に行ってくださらないのなら、私たちをここから上らせないでください」（出エジプト記 33 章 15 節）。私たちが勇気を持って声を上げたり、一歩前に踏み出したりすることを選ぶとき、勝利は神にあると確信することができます。神は、私たちが勇敢に導いていくために必要な力、進むべき方向、そしてビジョンを備えてくださるのです。

思い巡らせてみましょう（考察）

1. 恐怖を感じながらも、声を上げたり、立ち上がったり、行動を起こしたりしなければならなかった時のことを思い浮かべてみてください。その時、あなたに勇気を与えたものは何でしたか？
2. 誰がリーダーになれるかについて、今日の私たちの社会で、今も出会う文化的期待や固定観念にはどんなものがありますか？
3. 現代社会において、あまりにも慣れすぎていて、それを変えられると信じることをやめてしまっている問題はありませんか？　誰かが動くのを待つのではなく、あなた自身が「立ち上がる」とは、具体的にどのようなことでしょうか？
4. あなたはチームにどのような強みをもたらすことができますか？　また、他者に頼っている強みは何ですか？
5. 神が共にいてくださることへの信頼は、困難で複雑、あるいは恐ろしい状況に直面した時の私たちの応答を、どのように変え得るでしょうか？

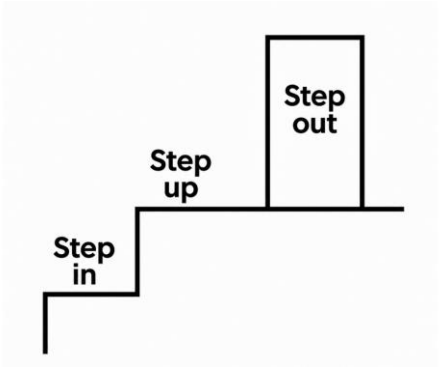
応答

踏み込み、立ち上がり、踏み出す

準備するもの：色紙（または厚紙）、ペンやマーカー

- 小グループの各メンバーに、ドアへと続く 2 段の階段を描いてもらいます。
- 踏み込む（Step In）：階段の 1 段めに、以下の問いに対する答えを文字か絵で描いてもらいます。「あなたは、どのような状況、不公正、あるいは必要性に対して、踏み込むよう招かれていると感じますか？」

- 立ち上がる（Step Up）：階段の 2 段めに、以下の問いに対する答えを文字か絵で描いてもらいます。「あなたはその状況に対して、どのようなスキル、経験、知識を提供できますか？」
- 踏み出す（Step Out）：ドアの部分に、以下の問いに対する答えを文字か絵で描いてもらいます。「その状況の具体的な解決に向けて、あなたはどのような勇気ある行動をとることができますか？」
- デボラは、イスラエルの人々が苦しんでいる中で、受け身のままでいたわけではないことを説明します。彼女は勇気を持ってその状況に「踏み込み」ました。また、預言者としての声と知恵を活かして「立ち上がり」、周囲の適切な人々を動かしました。そして、神が共に行ってくださると確信し、勇気を持って戦場へと「踏み出し」たのです。
- 参加者それぞれが、文字や絵でかいた内容を、無理のない範囲でグループ内で分かち合ってもらいます。



祈り

主イエスよ、

私たちは、不公正や抑圧を前にしながら、受け身のままでいたことを悔い改めます。デボラのように、私たちも、他の人々が沈黙を守る中で、声を上げ、立ち上がることができるよう、必要な勇気を今日与えてください。私たちの世代に向けられた希望の新しい言葉を、見る目と聞く耳を授けてください。デボラのように、誰も踏み出さなかった領域で先頭に立つ大胆さを、自分の限界を認めて他の人々の助けを求める謙虚さを、そして、あなたの力と導きに頼る確信を与えてください。あなたご自身がいつも私たちの先頭に立ってくださることを感謝します。　アーメン。

重要点のまとめ

- デボラの物語は、誰が権威やリーダーシップを行使できるのかについての、社会に根付いた既存の期待に挑むよう、私たちを促します。
- 勇気あるリーダーシップには、ある状況について他の人々が希望を失ってしまったところで、自ら率先して行動を起こすことが求められます。
- 自分とは異なるスキル、強み、経験、知識を持つ人々と補い合って協力するとき、私たちはより強くなることができます。
- 私たちが持つ勇気は、単に自分自身の能力に根ざしているのではなく、「主が私たちの先頭に立ってくださる」という確信に基づいています。どうか心に留めておいてください――「勇気を持つのです、愛しい子よ」。

注[2] マイケル・ウィルコック（1992）『The Message of Judges』（J.A.モイヤー編、レスター：インター・バーシティ・プレス）59 頁。

第 3 日
モーセ：不十分さを超える使命

導入

「私は、本当に自分がふさわしい人間なのだろうかと、自問することもありました……」

これは、ニュージーランドのジャシンダ・アーダーン元首相が、37 歳で首相に就任した当時の心境を語った言葉です。

もしかすると、あなたも同じような言葉を口にしたことがあるのではないでしょうか。エジプトで捕囚の身となっていたイスラエルの人々を導き出す使命を与えられたモーセも、アーダーン氏のこうした心境を、深く理解できたはずです。

デボラやネヘミヤの生きざまを通して見てきたように、神はご自身の世界を回復させるために、さまざまな形でご自分の民を呼び出されます。それは、平和と和解を促進するためであったり、不公正に対して立ち上がること、あるいは、神の民を抑圧している権力構造を変革することであったりします。

しかし、私たちは自分に与えられている賜物や才能を用い、神の“指名”に応えるとなると、自分には力不足ではないかと感じてしまうことがよくあります。自分には指導者に求められる資質があるのか、自分はその役割に適任なのか、他の誰かの方がふさわしいのではないか、と自問することもあるでしょう。実際、聖書に登場する多くの人々も、これと同じ思いを経験しました。その一人であるモーセは、神から「イスラエルの人々を捕囚の地から連れ出し、約束の地へと導く」という驚くべき使命を与えられました。

エジプトで何世代にもわたって暮らし、次第に強まる抑圧を経験したイスラエル人は、救いを求めて神に叫びました。神はそれに応え、彼らを奴隷状態から導き出すためにモーセを呼び出されたのです。人間の目から見れば、神が与えたこの任務に対して、モーセは明白な適任者には見えなかったことでしょう。彼のアイデンティティは複雑でした。ヘブライ人として生まれながら、エジプト王ファラオの家で育てられたモーセは、二つの世界のはざまで生きていました。彼は、ヘブライ人を殴り続けていたエジプト人を殺してしまった後、エジプトから逃亡しました（出エジプト記 2 章 11〜15 節）。彼の過去は、将来の民族の指導者に期待されるような経歴とは、およそかけ離れたものでした。

モーセの物語は、リーダーシップに完璧さは求められないことを理解するよう、私たちを励まします。自分には準備ができていない、経験が足りない、あるいは力不足だと感じることもあるかもしれません。しかし神様は、私たちに与えられている賜物や人柄、さらには弱ささえも用いて、私たちがリーダーとして導くよう呼び出された場所で、変化をもたらすことができるのです。

聖書

旧約聖書　出エジプト記 3 章 1 節〜12 節

[1] モーセは、しゅうとでありミディアンの祭司であるエトロの羊の群れを飼っていたが、あるとき、その群れを荒れ野の奥へ追って行き、神の山ホレブに来た。 [2] そのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない。 [3] モーセは言った。「道をそれて、この不思議な光景を見届けよう。どうしてあの柴は燃え尽きないのだろう。」

4 主は、モーセが道をそれて見に来るのを御覧になった。神は柴の間から声をかけられ、「モーセよ、モーセよ」と言
われた。彼が、「はい」と答えると、 5 神が言われた。「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あな
たの立っている場所は聖なる土地だから。」 6 神は続けて言われた。「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの
神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは、神を見ることを恐れて顔を覆った。

7 主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び
声を聞き、その痛みを知った。 8 それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、
広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住
む所へ彼らを導き上る。 9 見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのもとに届いた。また、エジプト人が彼
らを圧迫する有様を見た。 10 今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々
をエジプトから連れ出すのだ。」 11 モーセは神に言った。「わたしは何者でしょう。どうして、ファラオのもとに行き、
しかもイスラエルの人々をエジプトから導き出さねばならないのですか。」 12 神は言われた。「わたしは必ずあなたと
共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あな
たたちはこの山で神に仕える。」

旧約聖書　出エジプト記 4 章 10 節～12 節
10 それでもなお、モーセは主に言った。「ああ、主よ。わたしはもともと弁が立つ方ではありません。あなたが僕にお
言葉をかけてくださった今でもやはりそうです。全くわたしは口が重く、舌の重い者なのです。」 11 主は彼に言われ
た。「一体、誰が人間に口を与えたのか。一体、誰が口を利けないようにし、耳を聞こえないようにし、目を見えるよ
うにし、また見えなくするのか。主なるわたしではないか。 12 さあ、行くがよい。このわたしがあなたの口と共にあ
って、あなたが語るべきことを教えよう。」

リーダーシップの学び

１．私たちは自分自身の限界に目を向けてしまうかもしれませんが、神は私たちの可能性をご存じです。

モーセは、およそ 40 年もの間、ミディアンの地で羊飼いとして暮らしました。この期間の彼の生活は、一国を率いるための準備とは到底思えないようなものだったでしょう。彼は、一般的な意味での軍事的、政治的、あるいは公的な指導者ではありませんでした。古代世界において、ファラオは最も強大な支配者の一人でしたが、一方のモーセは、軍隊も王座も政治的な影響力も持たない羊飼いだったのです。

モーセは、自分自身を指導者だとは考えてもいませんでした。神から召し出された時、モーセは「私は何者でしょう。どうして私がファラオのもとへ行かなければならないのですか」と問いました（出エジプト記 3 章 11 節）。モーセは、自分に何ができるかではなく、自分に何が欠けているかに目を向けていました。自信のなさが、神が彼の前に置かれた責任を引き受けることをためらわせたのです。モーセは、自分のコミュニケーション能力についても気にしていました。出エジプト記 4 章 10 節で、彼は神に対して「わたしは口が重く、舌の重い者なのです」と述べています。話すことに困難を抱えるような人が、どうしてファラオの前に立ち、神のメッセージをイスラエルの人々に伝えることができるでしょうか。

モーセは自分自身を見つめ、重要でなく、有能でなく、準備のできていない人間だと感じていました。しかし、神はモーセに対し、自分の力だけでその務めを成し遂げるよう求めてはおられませんでした。神の答えは、「わたしはあなたと共にいる」でした（出エジプト記 3 章 12 節）。私たちは、自分にできないことに目を向けて、自分は力不足だと感じてしまうことがあります。しかし神は、神と共になら成し遂げられることを見ておられるのかもしれません。

2．私たちは、一人で導く必要はありません。

神が、イスラエルの人々をエジプトから導き出すためにモーセを呼び出されたとき、モーセはすぐに自分自身の限界に目を向けました。彼は自分にその能力があるのかと問い、自分は話すのが得意ではないという懸念さえ口にしました。神はモーセに対し、あらゆる弱さを克服するようにとは言わず、彼の傍らに立つ者としてアロンを備えてくださいました。

これは重要な気づきです。というのも、リーダーシップは、時として「すべての答えを持ち、あらゆる決断を下し、すべての責任を自分で背負わなければならない」と感じられるものだからです。誰かに助けを求めることは、リーダーとして十分な強さや能力が備わっていない印ではないか、と感じてしまうかもしれません。モーセの物語は、その逆を示唆します。他者の助けが必要だと認めることは、決して弱さではありません。むしろ、それは効果的なリーダーシップにおいて不可欠な要素となり得るのです。

3．私たちは自分自身ではなく、神を頼る必要があります。

モーセが呼び出されたことの中心的なテーマの一つは、神が「わたしはあなたと共にいる」と実際に繰り返し告げられたことです。モーセが務めを果たせたのは、結局のところ、彼自身が立派な人物だったからではなく、神が共にいて、必要なものを備えてくださったことによるのです。

モーセの物語は、自信のない一人の人間を、神が突然、揺るぎない自信を持つように変えた、という話ではありません。モーセは、自身の不十分さを抱えながらも、神の助けと周囲の人々の支えを得て、指導者として行動することを学んでいったのです。

神は、自分には力不足だと感じている人々を通して働くことができます。私たちが「自分だけで十分だ」と装うことをやめ、神に頼るようになったとき、リーダーとしての最も大きな成長が始まることがあるのです。

思い巡らせてみましょう（考察）

1. 自分ではまだ準備ができていない、能力が足りないと感じているのに、神様は私をリーダーとしてどこに導かせようとされているのでしょう？
2. 私の生活のどの部分で、「自分には力不足だ」という思いを、神様の招きの声よりも大きく響かせてしまっているのでしょう？
3. 私は、自分が完璧であることよりも、神様が共におられることの方が重要であると、心から信じているでしょうか？
4. 自分には力不足だと感じていたとしても、今週、勇気を出して踏み出せる一歩とは、どのようなものでしょう？

応答

力不足の壁

準備するもの：大きな紙、付箋、ペン。

大きな紙を貼り出し、「自分自身について、私が時々信じてしまっている『嘘』」というタイトルをつけます。
全員に付箋を配り、「自分の意見を言うこと」「神の呼び出しに従うこと」「リーダーシップに踏み出すこと」に関して、若者が力不足だと感じてしまうようなことを、匿名で書き出してもらいます。名前は不要です。例えば、次のようなものが挙げられます。

- 「私は自分に自信がない」
- 「私は十分賢くない」
- 「私は十分かわいらしくない」
- 「私は人気がない」
- 「私は聖書についてよく知らない」
- 「私は以前、失敗してしまった」

いくつか声に出して読み、それらをモーセの例と結びつけます。壁の下に、「それでも神様は私を用いてくださる」と書き記してください。

神様がモーセを選ばれたのは、彼に弱さがなかったからではないことを説明します。モーセの物語は、自分には力不足だと感じている人をも、神様は用いて働かれるということを教えてくれます。私たちが、自分だけで十分であるかのように振舞うのをやめたとき、リーダーとしての最も大きな成長が始まることもあるのです。

リーダーシップは、誰もが同じようにコミュニケーションを取り、考え、行動し、学び、貢献することを求めません。『出エジプト記』4 章 10 節で、モーセは神に対して「私は弁が立つ方ではありません」と語っています。話すことに苦労する者が、どうしてファラオの前に立ち、神のメッセージをイスラエルの人々に伝えることができるでしょうか。聖書には、モーセに障害があったと明記されているわけではありませんが、神は、優れた話し手であるアロンをモーセの協力者として与えられました。

モーセの物語は、自分には力不足だと感じることが、必ずしもリーダーシップに適していないことを意味するわけではない、と教えてくれます。時には、自分の限界を自覚するからこそ、より深く神に頼るようになり、自分を支えてくれる他者の価値に気づくことができるのです。

もう一つのアクティビティ（どちらかを使って下さい）

私はどの声に耳を傾けているのか？
用意するもの：紙とペン、小さな石、ろうそく。

自分が力不足だと感じたり、リーダーシップを発揮するにはためらいを感じたりする領域について、少し考えてみます。紙に「力不足の思いが、私に告げるのは…」という書き出しで文章を完成させます。心に浮かぶ考えや恐れをすべて書き出してみてください。

出エジプト記 3 章 11〜12 節を読んでみましょう。神がモーセに対して「わたしはあなたと共にいる」と約束されています。紙に「神が私に思い出させてくださるのは…」という書き出しで文章を完成させてみましょう。神が「共にいる」という約束は、あなたが直面している状況にどのような意味を持つでしょうか。

今、自分の中で最も大きく響いている「恐れ」を一つ思い浮かべます。小さな石、キャンドル、あるいは 1 枚の紙を目の前に置き、それを手に持ち、こう祈ります。「神様、『私には何かが足りない』と私に告げる事柄を、あなたにお渡しします」。それを置いて、こう言います。「私は、『わたしはあなたと共にいる』という、あなたの約束を受け取ります」。

最後に、こう書いて締めくくります。「神様が共にいてくださるから、私の次の一歩は…」。今週、あなたが踏み出せる、勇気ある小さな行動を一つ選びます。

祈り

父なる神さま、

私たちはモーセのように、時に自分自身を見つめて「自分は何者なのだろうか」と自問します。自分の弱さや失敗、自信のなさ、そして自分はふさわしくないと思わせる数々の理由が見えてくるのです。どうか、そうした声が、あなたからの呼びかけよりも大きく響くことがないようにしてください。私たちが自分の力で導くことを、あなたは求めてはおられないことを思い出させてください。あなたは、私たちと共にいると約束してくださっています。あなたを信頼する勇気、助けを求める謙虚さ、そして、次の一歩を踏み出す確信を、私たちにお与えください。たとえ準備ができていないと感じる時であっても。
アーメン

重要点のまとめ

- 神様は、私たちが自分には準備ができていない、力不足だ、あるいはふさわしくないと感じているときであっても、学校や地域社会、さらにはそれ以外の場所で、リーダーとしての役割へと招いてくださることがあります。
- リーダーシップとは、最も有能であることではありません。それは、自ら進んで一歩を踏み出し、自分の弱さを認め、助けを受け入れ、神様を信頼することです。
- モーセは、自分はその務めにふさわしくない者だと感じていましたが、自分の力不足を思う気持ちよりも、一歩を踏み出そうとする意志こそが大切だったのです。
- 力不足に感じることは、神からの呼び出しに対して不適格であることを意味するわけではありません。そうした限界があるからこそ、私たちは神や他者に近づけられることがあるのです。

第 4 日
エステル：希望のために声を上げる使命

導入

「世界を動かしているのは誰？ 女の子たちよ！」

2011 年、誰もがこのキャッチーな歌詞を口ずさんでいました。これは、力強い音楽と芸術性、そしてポップカルチャーへの影響力で知られる世界的に有名なシンガー、ソングライター、パフォーマーであるビヨンセの楽曲の一節です。

しかし悲しいことに、世界中の多くの国において、リーダーシップは依然として非常に男性中心であり、男性的な性質を帯びているのが現実です。皆さんの国はどうでしょうか。国会や議会に、女性は何人いますか。UN Women [国連女性機関] の 2026 年のデータによると、世界中で女性が国家元首や政府の長を務めているのは、わずか 28 カ国です。世界全体で、閣僚ポストに占める女性の割合は 22.4%、議席に占める女性の割合は 27.5%です。閣僚の男女比が均等（ジェンダー・パリティ）に達している国は 14 カ国しかなく、下院または一院制議会において女性の割合が 50%以上に達しているのは、わずか 7 カ国です。[註 3]

歴史を振り返ると、女性が国家の最高位に就いた例はいくつもありますが、その多くは夫や息子、あるいは兄弟などの男性に代わって権力を保持するという形でした。歴史書において女性が占める割合はごく小さく、王の妻や母は、名前すら記憶されていないことも少なくありません。同様に、聖書においても、多くの女性が男性との関係性――娘、妻、母、義母、姉妹といった立場――を通じて描かれていて、重要な役割を果たしていても、名前が記されないままであることが多いです。

王妃エステルは違います。彼女の名は記録され、記憶されています。実際、聖書の中で女性の名が冠された書物は、『ルツ記』と『エステル記』の二つだけです。女性とリーダーシップについて論じる際、この二つの書はとりわけ重要な意味を持ちます。なぜなら、ルツもエステルも、聖書に登場する一部の男性指導者たちのように、軍事力や政治的な地位を通じて導いたわけではないからです。彼女たちの影響力は、しばしば自分では制御できない状況の中で、勇気、知恵、忠誠心、信仰、そして行動を通じて示されます。

エステルの物語は、女性の価値がその美しさや、権力を持つ男性にとっての有用性におとしめられかねない世界で幕を開けます。ごく若い頃に、ハーレム（後宮）の一員となるべくクセルクセス王の宮廷へ連れてこられ、美しさゆえに選ばれたエステルには、自分の人生を形作る状況を自らコントロールする余地はほとんどありませんでした。エステルの経験は、同意、強要、性的搾取、そして権力をもつ男たちが支配する制度の中で若い女性がいかに限られた主体性しか持ち得ないかということについて、深刻な問題を提起しています。今日の多くの女性たちと同様、エステルもまた、美しく、従順で、王を喜ばせる存在であるといった、ごく狭い文化的枠組みの中での「女性らしさ」に従う

ことを求められていました。しかし、そうした期待の奥には、やがて勇気を奮い起こし、与えられた限られた立場を活かして声を上げ、行動し、同胞であるユダヤの人々を救うことになる一人の女性がいたのです。

『エステル記』において、ユダヤの人々は命の危険にさらされていました。クセルクセス王の宮廷で権力を持つ高官ハマンが、自分にひざまずくことを拒んだエステルの従兄モルデカイに腹を立てたからです。ハマンは王を説得し、ペルシャ帝国全土に住むユダヤ人を滅ぼすことを許可する勅令を出させます。こうしてエステルは、困難な選択を迫られることになります。沈黙を守って自分の身を守るか、それとも自らの地位、さらには命さえも危険にさらす覚悟で王のもとへ赴き、同胞のために嘆願するか――。

聖書

エステル記 4 章 10 節―16 節
10 エステルはまたモルデカイへの返事をハタクにゆだねた。 11「この国の役人と国民のだれもがよく知っているとおり、王宮の内庭におられる王に、召し出されずに近づく者は、男であれ女であれ死刑に処せられる、と法律の一条に定められております。ただ、王が金の笏を差し伸べられる場合にのみ、その者は死を免れます。三十日このかた私にはお召しがなく、王のもとには参っておりません。」 12 エステルの返事がモルデカイに伝えられると、 13 モルデカイは再びエステルに言い送った。「他のユダヤ人はどうであれ、自分は王宮にいて無事だと考えてはいけない。 14 この時にあたってあなたが口を閉ざしているなら、ユダヤ人の解放と救済は他のところから起こり、あなた自身と父の家は滅ぼされるにちがいない。この時のためにこそ、あなたは王妃の位にまで達したのではないか。」 15 エステルはモルデカイに返事を送った。 16「早速、スサにいるすべてのユダヤ人を集め、私のために三日三晩断食し、飲食を一切断ってください。私も女官たちと共に、同じように断食いたします。このようにしてから、定めに反することではありますが、私は王のもとに参ります。このために死ななければならないのでしたら、死ぬ覚悟でおります。」

リーダーシップの学び

１．リーダーシップは、思いがけない場所から生まれることがある。

エステルは、リーダーシップがいかにして思いがけない場所から生まれ得るかを示す、特別に力強い例です。彼女の物語は、最初からリーダーとして始まったわけではありません。ペルシャ帝国で暮らしていたユダヤ人の若い女性であった彼女は、王宮に連れてこられ、自ら選んだわけではない立場に置かれました。彼女の境遇は、自分の力の及ばない力によって形作られ、男性優位の王室制度の中で、決められた役割を果たすことを期待されていました。

しかし、危機が訪れたとき、エステルは自分の置かれた立場から、事態に影響を与える機会を得ました。彼女は沈黙を守ることもできたでしょう。特に、自分がユダヤ人であることを明かして王に近づくことには、深刻な個人的リスクを伴うことだったからです。けれども、彼女は、自分の立場こそが、他の誰にもない接近の機会と影響力を自分に与えていることを認識したのです。

２．神があなたを置かれた場所で、あなたに与えられた影響力を用いなさい。

エステルは、全く異なるタイプのリーダーシップを示しています。彼女には軍隊も武器もなく、武力や暴力によって戦ったわけでもありません。実際、彼女は「王妃」ではあっても、本当の意味での権力を持っておらず、王の気まぐれ次第で立場が危うくなり得るような存在でした。（前王妃ワシュティは、クセルクセスの要求に従わなかったために追放されていました。）それでも彼女は、最終的な決定権を握る人物に影響を与える道を見つけます。自分が危険にさらされる可能性があることを承知の上で、そのリスクを負うことを選んだのです。

エステルは、自らが置かれた状況の中で働きました。彼女は、自分の持っている人間関係、声、知恵、戦略的な考え、そして勇気を用いました。彼女のリーダーシップは、公式な権限や、その場で最も権力のある人物であることに基づいていませんでした。そうではなく、彼女は自分が行使できる影響力を使って、ほとんど力を持たない人々のために声を上げたのです。

３．障壁を取り壊し続けるために、共に働きましょう

『エステル記』は、王妃になる準備など全くしていなかった一人の若い女性の物語です。彼女は、自分の人生を自分で決める権利のないまま、王宮に連れてこられ、常に監視下に置かれ、クセルクセス王の数多い所有物の一つであるかのように扱われました。現代の視点から見れば、彼女の置かれた状況は非常に痛ましく、自由と自律の著しい欠如を映し出しています。しかし、『エステル記』が描く世界において、これは多くの女性が経験していた現実の一部で、彼女たちの人生は、男性や、それを取り巻く社会構造によって、ほとんど完全に支配されていたのです。悲しいことに、今日の世界でも多くの少女や若い女性、そして女性たちが、今なおこれと似たような制限を受けている地域があります。

今日、平等はまだまだ普遍性には至りませんが、多くの国で女性が最高位の政治的役職に就くことが可能になっています。こうした進歩は、既存の期待に自ら進んで挑み、他者のために声を上げ、女性にもリーダーとなる自由と機会があるべきだと主張してきた人々によって形作られてきました。多くの国において、公的なリーダーの役割を担う女性の数は依然として少ない中で、YWCA／YMCA のグループにおいてリーダーとなることへの使命感を抱いている少女や若い女性たちを、私たちはどのように意識的に励まし、支援し、必要な力を備えられるよう後押しできるでしょうか。

思い巡らせてみましょう（考察）

1. 神様は、誰のために声を上げるよう、私を呼ばれているのでしょうか？
2. 私は、自分の持つ影響力を、他の誰かの状況を改善するためにどのように用いることができるでしょうか？
3. 沈黙は、暴力や排除を容認することを意味しかねません。恐怖を乗り越え、声を上げるために、私には何ができるでしょうか？
4. 影響力をもつことを妨げる障壁には、どのようなものがあるでしょうか？　また、伝統的に権力から排除されてきた人々のために、私たちはどのようにその障壁を取り除く手助けができるでしょうか？

応答

エステル：仲間に入っているのは誰？

準備するもの：色とりどりの付箋、ステッカー、または小さく切った色紙。

参加者全員に輪になって座ってもらい、目を閉じてもらいます。参加者一人ひとりの額に、色付きの付箋などを貼り付けます。その際、何人も同じ色がある一方で、1 人しかいない色が 1〜2 色あるようにします。

参加者には、自分の額に貼られた付箋の色は見ないように伝えますが、他の人の額に貼られた色は見ても構いません。グループの作り方については何も指示せず、参加者たち自身でグループを作ってもらいます。

自然に何が起こるかを体験してもらいます。すぐに自分の「グループ」を見つける人もいれば、特別な色を持っているために、一人取り残されてしまう人もいるかもしれません。

全員を再び集め、次のように問いかけてみてください。

- 自分のグループを見つけたとき、どんな気持ちでしたか？
- 一人取り残されていた人は、どんな気持ちでしたか？
- 誰かが取り残されていることに気づいた人はいますか？
- その人を自分のグループに誘った人はいますか？誘った、あるいは誘わなかったのはなぜですか？
- 自分と似た人たちと一緒にいる方が楽でしたか？
- もし誰かが排除されているのを見かけたら、何ができるでしょうか？

エステルの物語において、ユダヤの人々は、ペルシャで暮らす少数派だったことを説明しましょう。彼らは周りの多数派とは異なっていて、自分たちが何者であるかを理由に、やがて恐ろしい脅威に直面しました。エステルは、沈黙して自分を守ることもできる立場にいました。しかし彼女は、同胞のために声を上げることを選びました。いとこのモルデカイは彼女に、「この時のためにこそ」王妃になったのではないかと考えてみるよう、強く問いかけました（エステル記 4 章 14 節）。エステルは、自分に与えられた立場を用いて、弱く危険にさらされている人々のために立ち上がったのです。

祈り

善なる神さま、

あなたは、私たちの恐れや弱さを誰よりもよくご存じです。私たちが自分自身を疑い、自分の存在価値を見失ってしまうときのことも、あなたはご存じです。また、私たちが自分自身を理解している以上に、あなたは私たちのこと、

そして私たちの能力を知っておられます。私たちが自分を信じられないときでさえ、あなたは私たちを信じてくださいます。私たちの周りに何が起ころうとも、あなたは私たちと共にいてくださいます。

私たちは、あなたの恵みと支えを求めます。あなたが私たちの前に置かれる困難に立ち向かえるよう、力と自信をお与えください。自分の声を持てない人々 ――見過ごされ、屈辱を受け、忘れ去られてしまった人々―― の声となれるよう、私たちを助けてください。この世界において、私たちをあなたの道具としてお用いください。かつてエステルに勇気を与えられたように、私たちにも、不公正や暴力に立ち向かう勇気をお与えください。

平和と平等、そして憎しみではなく互いへの愛に導かれる世界を築くための私たちの闘いを、どうか支えてください。それは、人々が互いに争うのではなく支え合う世界、性別、年齢、出自、性的指向、信仰、その他私たちがこの地上で作り出したあらゆる分断に基づいて、誰一人として裁かれることのない世界です。

アーメン。

重要点のまとめ

- エステルは、神の御心にかなったリーダーシップが、いかに思いがけない場所から生まれ得るかを示す一例です。
- 勇気あるリーダーシップとは、自分の立場を他者のために用いることです。
- 変化は、自分のもつどんな影響力であっても、それを行使しようとする一人の人間から始まります。特に、沈黙を守ることが不公正の継続を許すことになる場合はそうです。
- 神は人々を分断したりはされません。神は私たちすべてを愛しておられ、神の国にはすべての人にそれぞれの居場所が備えられているのです。

[注 3]
https://www.unwomen.org/en/articles/facts-and-figures/facts-and-figures-womens-leadership-and-political-participation

第 5 日
アビガイル：平和を追い求める使命

導入

そして彼女たちは立ち上がる
全身を白に包んで
光を運ぶために、女たちがやってきた
愛には、敵も味方もない
すべての争いに、終止符を打つために
——モン・ロヴィア、『Bloodline (血筋、血統)』（2026 年）収録「祈って悪魔を地獄へ追い返せ」より

アフロ・アパラチアン系（訳者注：米国東部のアフリカ系）フォーク歌手であるモン・ロヴィアは、自身の楽曲『Pray the Devil back to Hell（祈って悪魔を地獄へ追い返せ）』の終盤で、「リベリア女性 平和のための大衆行動（Women of Liberia Mass Action for Peace）」を力強く称えています。これは、2003 年の第二次リベリア内戦終結にとても重要な役割を果たした、女性たちによる非暴力運動です。異なる部族や宗教の何千人もの女性たちが、目に見える平和の象徴として白い服を身にまとい、連日、非暴力の抗議活動に参加しました。彼女たちは公共の場でデモや祈りの集会を行い、軍閥の指導者たちと直接対峙したほか、和平交渉が行われている建物の外で、人間によるバリケードを築きました。2011 年には、この運動の立役者であるレイマ・ボウィ、エレン・ジョンソン・サーリーフ、タワックル・カルマンの 3 名に、ノーベル平和賞が共同授与されました。ボウィはノーベル賞の受賞演説の中で、マーティン・ルーサー・キング博士の次のような深い洞察に満ちた言葉を引用しています。「暴力は、決して恒久的な平和をもたらさない。暴力は社会問題を何一つ解決せず、かえって新たな、より複雑な問題を生み出すだけである。」

平和、一致、そして和解を追求するリーダーたちにとって、キング博士の言葉は今なお心に響きます。今日、世界中で 110 を超える武力紛争が続いており[註 4]、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の 16 番目である「平和、正義、強固な制度」の実現には、まだはるかに遠い状況です。今、あなた自身の生活に影響を及ぼしている紛争について考えてみてください。それは世界規模のものかもしれませんし、あなたの地域社会や、あるいは家庭の中に存在するものかもしれません。世界は今、平和をつくる人々を切望しています。それは、紛争に対して臆病な受動性や暴力的な攻撃性で応えるのではなく、創造性、知恵、そして謙虚さをもって和解へと向かっていく、勇気あるリーダーたちのことです。

リベリアの女性たちと同様、今日の聖書の学びの中心にいる女性も、対立する二つの勢力に挟まれています。旧約聖書のサムエル記上 25 章には、「聡明で美しい」アビガイルという女性が、裕福で利己的な地主ナバルと結婚していたと記されています。ダビデが部下たちを率いてパランの荒野を巡っていた際、彼はナバルの羊の群れを世話する羊飼いたちを保護していました。ダビデはナバルのもとに使者を送り、その保護の対価として、部下たちのための食料を分けてくれるよう頼みます。しかしナバルがその要求を拒絶し、侮辱の言葉で応じると、激怒したダビデは 400 人の部下を連れて、ナバルとその家の一同を殺そうと出かけます。一人の召使いがナバルの返答をアビガイルに知らせ、彼女は知恵と勇気、そして巧みな交渉術を駆使して、自分の一家を破滅から救い出すのです。

聖書

旧約聖書　サムエル記上 25 章 18 節―28 節

18 アビガイルは急いで、パンを二百、ぶどう酒の革袋を二つ、料理された羊五匹、炒り麦五セア、干しぶどう百房、
干しいちじくの菓子を二百取り、何頭かのろばに積み、 19 従者に命じた。「案内しなさい。後をついて行きます。」彼
女は夫ナバルには何も言わなかった。 20 アビガイルが、ろばに乗って山陰を進んで行くと、向こうからダビデとその
兵が進んで来るのに出会った。 21 ダビデはこう言ったばかりであった。「荒れ野で、あの男の物をみな守り、何一つ
無くならぬように気を配ったが、それは全く無益であった。彼は善意に悪意をもって報いた。 22 明日の朝の光が射す
までに、ナバルに属する男を一人でも残しておくなら、神がこのダビデを幾重にも罰してくださるように。」

23 アビガイルはダビデを見ると、急いでろばを降り、ダビデの前の地にひれ伏し礼をした。 24 彼女はダビデの足もと
にひれ伏して言った。「御主人様、わたしが悪うございました。お耳をお貸しください。はしための言葉をお聞きくだ
さい。 25 御主人様が、あのならず者ナバルのことなど気になさいませんように。名前のとおりの人間、ナバルという
名のとおりの愚か者でございます。はしためは、お遣わしになった使者の方々にお会いしてはいないのです。 26 主は
生きておられ、あなた御自身も生きておられます。あなたを引き止め、流血の災いに手を下すことからあなたを守っ
てくださったのは主です。あなたに対して災難を望む者、あなたの敵はナバルのようになりましょう。 27 ここにある
物は、はしためが持参した贈り物でございます。お足もとに仕える従者にお取らせくださいますように。 28 どうかは
しための失礼をお許しください。主は必ずあなたのために確固とした家を興してくださいます。あなたは主の戦いを
たたかわれる方で、生涯、悪いことがあなたを襲うことはございませんから。

リーダーシップの学び

１．平和を築くには、受動的ではなく、能動的な応答が求められます。

アビガイルの応答は、差し迫った危険を前に、決然として、勇敢で、そして迅速なものでした。彼女はただ手をこまねいていたり、逃げ出そうとしたりするのではなく、ダビデの怒りをうまく鎮めるための計画を「急いで」実行します（サムエル記上 25 章 18 節）。彼女はダビデの 400 人の部下の必要を十分に満たす食料を用意し、和解の贈り物として自分より先にそれらの物資を送り出します。彼女の抵抗は受動的なものではなく、戦略的なものです。彼女は勇敢にも対立の源へと向かい、ロバにまたがって山あいの道を進み、ダビデとその武装した部下たちを迎えます。私たちはここで、平和をつくることは、対立から身を隠すことではなく、その解決に向けて動くことなのだと教えられます。詩篇 34 篇 14 節でダビデが記しているように、「平和を尋ね求め、追い求めよ」ということです。この考え方は、旧約聖書に約 250 回登場するヘブライ語「シャローム」という言葉に現れてます。「シャローム」は、単に戦争や対立がない状態を指すのではなく、全体性、完全さ、そして回復を意味します。平和をつくり出すリーダーとして、私たちはこの「シャローム」を目標とすべきなのです。

２．平和をつくり出すには、世の武器ではなく、創造的な代替手段を用います。

ダビデとは異なり、アビガイルは剣を携えることも、軍隊を差し向けることもしませんでした。彼女が用いた「武器」は、干しぶどうの菓子と、慎重に選び抜かれた言葉でした！　彼女が差し出した食べものの贈り物は、ダビデの部下たちの肉体的な必要を満たすと同時に、当初拒絶された物資に対する埋め合わせを行うことで、対立の根源に直接働きかけるものでした。さらに彼女は、言葉を通じて関係修復を図りました。対立の原因を認め、許しを請い、夫の侮辱的な態度とは対照的に、ダビデの偉大さを公に称えたのです。決定的なことに、彼女はダビデに対し、神の目には彼がどのような者であるか、そして彼女の家の者を殺すことは、彼の本来の姿にふさわしくないことを思い起こさせます。攻撃に対して攻撃で応えるのではなく、アビガイルは私たちに、平和的かつ創造的で、型にはまらない手段、つまり言葉、外交的な知恵、資源、そして祈りをもって対立に向き合うよう促しているのです。

３．平和をつくることは、大きな謙遜を必要とします。

アビガイルはダビデの前で自らを低くし、彼の足元にひれ伏して、話す許可を求めました。彼女は自らを「はしため（召使い）」と位置づけ、ダビデを「わが主」と呼びました。夫の振る舞いに対する責任と罰を自ら引き受け入れようとする彼女の行動には、無私の態度と、キリストのような謙遜さを見ることができます。サムエル記上 25 章 32 節から 35 節を読むと、ダビデもまた、アビガイルが神から授かった知恵を受け入れる謙遜さを持っていて、彼女の勇気ある仲裁を祝福していることが分かります。ロバに乗って山あいの道を進むアビガイルの姿は、イエスがエルサレムに凱旋入場された出来事や、自己を犠牲にする愛という究極の行いを、私たちに指し示します。効果的な紛争解決には、自らの過ちを認め、赦しを請い、愛をもって導くという謙遜さが不可欠であることが思い起こされます。平和をつくることのために、暴力や虐待を受けている人が自らを危険にさらしたり、誰かの有害な行いに対する責任を負わされたり、あるいは安全ではない状況にとどまり続けたりすることを強いられてはなりません。安全や支えを求めることは、それ自体が、勇気と知恵の行為となり得るのです。

思い巡らせてみましょう（考察）

1. 歴史上の人物や、今のあなたの暮らしの周辺で、あなたの心を奮い立たせてくれる、平和をつくりだす人は誰ですか？　その人たちはどのような行動をとることで変化をもたらしましたか、あるいは今もたらしていますか？
2. 対立に向き合うよりも、それを避ける方が楽だと感じることがあるのは、なぜだと思いますか？
3. 対立に直面したとき、あなたが使える平和的な手段にはどのようなものがありますか？（ヒント：傾聴、もてなし、寛大さ、祈り、物語を語ること、など）
4. あなた自身の生活や地域社会において、現在進行中の対立を思い浮かべてください。あなた自身や周囲の人々に謝罪したり、許したり、あるいは相手の話に耳を傾けたりするために謙虚さが必要とされる場面はありますか？
5. あなたの周りの世界のどこに、平和や和解、あるいは関係の修復の必要を感じますか？

応答

平和のバナー(旗)

用意するもの：白い紙か厚紙、カラーペン、穴あけパンチ、リボン・ひも・麻ひもなど。

- 参加者一人ひとりに、紙（または厚紙）とペンを配ります。
- 参加者に、次の問いに対する答えを、言葉や絵でかいてもらいます。「もしもあなたが、自分の地域や世界にある紛争の一つに平和をもたらすことができるとしたら、あなたは何を変えたいですか？」
- 裏面には、「平和のために、私にはどんな行動ができるだろうか？」という問いへの答えを、言葉か絵でかいてもらいます。
- 紙の上部の両角に穴あけパンチで穴を開け、長いリボンや麻ひもを通します。
- できあがった「平和のバナー」を、若い人たちが心奮い立たせられるよう、教会、公民館、ユースクラブなどの人目につく場所に掲示します。

祈り

主イエスさま、

あなたの御国(みくに)が、平和と謙遜、そして愛の国であることを感謝します。今日、武力紛争が続いているすべての場所において、あなたの御国が到来し、あなたのご意思が行われますよう祈ります。私たち自身の家庭や学校、大学、地域社会における対立のためにも祈ります。アビガイルのように、今この世界が必要としている「平和をつくる者」となれるよう、私たちを勇気づけてください。勇気と切迫感をもって対立の場に向かい、私たちの手にある非暴力の道具を用い、謙遜をもって攻撃性に立ち向かうことができますように。憎しみや暴力、分断があるところに、あなたの完全な「シャローム（平安)」をもたらせてください。　アーメン。

重要点のまとめ

- 平和とは、単に対立がないことではなく、全体性と回復がそこにあることです。
- 効果的に平和をつくり出すには、私たちの言葉、もてなし、祈りといった、私たちが利用可能な創造的で非暴力的な道具を活用することが必要です。
- 建設的な紛争解決には、自らの過ちを認め、赦しを求め、愛をもって導く謙遜さが不可欠です。

注[4] https://archives.geneva-academy.ch/galleries/today-s-armed-conflicts.html

第 6 日
プリスキラ：他者のために力を注ぐ使命

導入

私たちはこれまで、デボラやモーセのように、公の形で神に仕えた聖書の中の力強いリーダーたちについて見てきました。では、舞台裏で行われるリーダーシップとは、どのようなものなのでしょうか。私がこれまで経験した中で、最も意義深いと感じたリーダーシップのいくつかは、舞台の上や大勢の前で行われたものではありませんでした。それを見たのは、静かな場面でした。苦闘している人を励ますこと、ユースグループの準備のために早めに来て手伝うボランティアたち、何かが必要な時に進んで手を貸すこと、あるいは、人に認められることを求めずに、ただ他の人々を支えること――。リーダーシップとは、必ずしも前に立つ人であることを意味しません。時には、舞台裏から誠実に影響を与え、仕えること意味するのです。

プリスキラの生涯は、このことを示す力強い一例です。彼女は、1 世紀中頃から後半にかけて、夫アキラと共に奉仕した、力強く影響力のあるリーダーでした。この 2 人は元々ローマに住むユダヤ人でしたが、皇帝クラウディウスの治世下の西暦 49 年、この夫妻を含むすべてのユダヤ人がローマからの退去を強いられました。このため夫妻はコリントへ移り、そこで、宣教旅行中の使徒パウロと初めて出会ったのです。

プリスキラとアキラはごく普通の２人で、パウロと同じく、職業はテント作りでした。そのためパウロは彼らの家に滞在するようになり、彼らはとても親しい友人となりました。やがてパウロがシリアに向かうために去らなければならなくなったとき、夫妻は彼に同行し、その宣教の旅を支えることに決めました。

この夫妻は、神様がごく普通の人々を用いて、並外れたことを成し遂げられることを教えてくれます。神様の働きに関わるには、必ずしも専任の宣教者である必要はありません。看護師、教師、パイロット、エンジニア、その他どのような職業に就いていようとも、仕事の内でも外でも、神様の働きに関わる機会はあります。私たちには皆、賜物が与えられていて、神様は私たちのような普通の人々を選び、ご自分の壮大な計画のために用いてくださるのです。あなたは、神様によって並外れた形で用いられることを受け入れるよう、心を開いていますか？

聖書においてプリスキラとアキラの名が登場するのは 7 回のみですが、そのうち 5 回はプリスキラの名が先に挙げられており、これはこの夫妻の宣教活動における彼女の主導的な役割を明示しています。2 人に関する詳細は多くは語られていませんが、その重要性は明らかであり、見過ごされるものではありません。他者を支え、その人が宣教の働きを担えるよう成長を支えるリーダーとはどのようなものか、私たちが学べることが多くあります。

聖書

新約聖書　使徒言行録 18 章 24 節-26 節

24 さて、アレクサンドリア生まれのユダヤ人で、聖書に詳しいアポロという雄弁家が、エフェソに来た。 25 彼は主の道を受け入れており、イエスのことについて熱心に語り、正確に教えていたが、ヨハネの洗礼しか知らなかった。 26

このアポロが会堂で大胆に教え始めた。これを聞いたプリスキラとアキラは、彼を招いて、もっと正確に神の道を説明した。

新約聖書　ローマの信徒への手紙

3キリスト・イエスに結ばれてわたしの協力者となっている、プリスキラとアキラによろしく。 4命がけでわたしの命を守ってくれたこの人たちに、わたしだけでなく、異邦人のすべての教会が感謝しています。 5また、彼らの家に集まる教会の人々にもよろしく伝えてください。わたしの愛するエパイネトによろしく。彼はアジア州でキリストに献げられた初穂です。

リーダーシップの学び

１．リーダーシップとは、必ずしも常に最前線に立つことだけを指すわけではありません。

プリスキラは、使徒パウロや、彼が関わった宣教活動のすべてと深く結びついていた、力強いリーダーでした。パウロはプリスキラと夫アキラの両人を高く評価しており、ローマの教会に対して、彼らによろしく伝えるように勧めたほどです（ローマ人への手紙 16 章 3 節）。しかし、プリスキラのリーダーシップは、必ずしも彼女をスポットライトの当たる場所へと導くものではなく、むしろ背後から仕える役割を担わせました。聖書には、彼女がアポロを支え、彼が会堂で大胆に奉仕できるよう備えさせたことが記されています（使徒言行録 18 章 26 節）。プリスキラとアキラは、アポロを公の場で恥ずかしめたり、騒ぎ立てたりするようなことはせず、彼を自宅に招き入れ、「もっと正確に神の道を」説き明かしたのです（使徒言行録 18 章 26 節）。2 人は宣教の働きを深く大切に思っており、自分たちが前面に出るのではなく、アポロの働きを支える道を選びました。こうしたリーダーシップは、必ずしも周囲から認められるとは限りませんが、他者の宣教の働きを支えることは、無私で謙虚なリーダーシップの形です。それは、神がある人を通して、またその人の内側で行おうとしておられることをその人が全うできるよう、相手を高める行為なのです。プリスキラは、この働きが自分自身のものではないことを知りつつも、自分にも果たすべき役割があり、アポロの成長を促す必要があると分かっていました。彼女は、多くの人の目には留まらなかったとしても、この特定の宣教において、同じように重要かつ不可欠な役割を果たしたのです。

２．神の働きに関わることには、代償を伴うことがあります。

プリスキラは、宣教の働きに関わったために、多くの犠牲を払わなければなりませんでした。彼女と夫のアキラは、神の働きを担うために、自分たちの安寧を犠牲にしました。プリスキラとアキラは、神への信仰ゆえに、その地ですでに異邦人となっていました（使徒言行録 18 章 1〜2 節）が、パウロのシリアでの宣教に同行するため、再び別の地へと移り住むことを選びました（使徒言行録 18 章 18 節）。より容易で快適な道を選ぶのではなく、神に仕えるために、それまでの生活様式を犠牲にしようと決めたのです。２人は、安らぎだけでなく自分たちの安全さえも犠牲にしました。パウロは、夫妻が「命がけでわたしの命を守ってくれた」と記しています（ローマの信徒への手紙 16 章 4 節）。これは具体的にどのような状況だったのでしょうか。それはわかりません。公の場でパウロを弁護したのでしょうか。それとも、パウロを密かに牢獄から連れ出したのでしょうか。あるいは、多額の資金を借りたのでしょうか。詳細は記されていませんが、パウロが何年も後になっても言及しようと考えた大変に勇敢な行いだったのです。神の働きに携わることは本当に特別な恵みですが、そこには代償や犠牲が伴うこともあります。私たちの時間、労力、金

銭、社会的地位、安らぎ、あるいは安全さえもが、神の働きを行う代償となる可能性があります。しかし、プリスキラとアキラの例が示すように、神は私たちが払った犠牲を認め、それについて私たちに祝福を与えてくださるのです。

３．神は、思いがけないと思える人々でさえも、誰でもご自身の使命のためにお用いになることがあります。
紀元 1 世紀のローマ世界において、女性は男性と対等な存在とは見なされていませんでした。社会的にも政治的にも男性と同等の権利はなく、法的には家長である男性の支配下に置かれたままでした。しかし、社会では男性と同等の地位になかったにもかかわらず、神はプリスキラとアキラの双方を、対等に用いることを選ばれました。２人は共に神の使命に関わり、完全に平等な存在として記されています。当時としては、これは極めて革命的かつ急進的なことだったでしょう。どのような人であれ、神はその人自身と、その人に与えられた賜物を用いて、地上に神の国を築くために用いることができます。神は、私たちが今日基準にしているものさしで人を見たり、比較したりはなさいません。むしろ、地上における神の働きの中には一人ひとりに居場所があり、神はすべての人を含めようとされるのです。たとえ、それが意外に思えるような人であっても。私たちは皆、何らかの賜物や才能を持って生まれてきていて、誰もが、集団的なリーダーシップに貢献する力を備えているのです。

思い巡らせてみましょう（考察）

1. 「リーダーシップ」や「リーダー」を考えるとき、あなたは誰を思い浮かべますか？　人々の目に触れる最前線に立つ人でしょうか、それとも、舞台裏で他の人たちを支え、成長を促す人でしょうか。
2. あなたが力を注ぐことで、より強く成長できるのは誰でしょうか。
3. あなたは今、誰に対して、意図的に指導的関りをもち、その人が神様から期待されているような人物になれるよう、助けの手を差し伸べていますか？
4. 表舞台ではなく、舞台裏から神様に仕えるために、あなたには何ができるでしょうか。
5. 今日、あなたはどのような形で、他の人たちの心を奮い起こすことができるでしょうか。

応答

励ましの付箋メッセージ
準備するもの：ペン、容器、紙、付箋
参加者それぞれに、小さな紙に自分の名前を書いてもらい、それを折って容器（帽子でもプラスチック箱でも）に入れます。中身をよく混ぜてから、全員に 1 枚ずつ引いてもらいます。自分の名前を引いてしまった場合は、別の紙を引き直してもらいます。
参加者全員に付箋とペンを配ります。引いた紙に書かれている相手に向けて、励ましのメッセージを付箋に書き、その相手に渡してもらいます。このアクティビティは、参加者が互いを励まし、お互いを鍛え上げる練習をする助けになります。

もう一つのアクティビティ（どちらかを使って下さい）

匿名での励まし合いを希望する場合は、アクティビティを少し変えてみましょう。名前をくじで引くのではなく、誰に届くか分からない状態で、相手を特定しない励ましのメッセージを付箋に書いてもらいます。書き終えた付箋は壁に貼ってもらい、すべてが貼りだされたら、一人ひとりが無作為に一枚ずつ選ぶようにします。
もし参加者が望むなら、まず祈りの時を持ち、神様が何を書くと望んでおられるかに耳を傾けてみるのもよいでしょう。匿名のメッセージが、受け取る人にとって、深く個人的で、時宜にかなった励ましの言葉となるかもしれません。

祈り

愛する神様、 私たちを、この地上におけるあなたのお働きの一部に加えてくださることを感謝します。周りの人々をどのように支えるべきか、あなたの視点からそれぞれの状況を見つめることができるよう、私たちを助けてください。いつ裏方に回り、誰かを育てて表舞台で仕える者とするかを見極める知恵をお与えください。そのようなリーダーシップにふさわしい、謙虚な心を養うことができますように。周りの人々を励ます際、適切な言葉を与えてください。プリスキラがアポロのような人々を育て、宣教の働きへの備えを助けたように、私たちもそのようなリーダーとなれるよう導いてください。あなたの働きに参与するよう助けてくださることを感謝します。一人ひとりに、あなたの働きの中で果たすべき役割があることを、いつも心に留めていられますように。 アーメン。

重要点のまとめ

- リーダーシップとは、必ずしも特定の働きに直接携わることだけを指すのではありません。時には、他の誰かがその働きを担えるように、その人を成長させ、支えていくこともリーダーシップの一部です。
- 神の宣教において、すべての人に果たすべき役割があります。それは一部の人に限られたことではなく、一人ひとりの役割の形がそれぞれ異なるというだけのことです。
- 神は、最も思いがけないような人物を、ご自身の働きのために用いられることがあります。神が私たちを予期せぬ形で用いようとされるとき、私たちはどのような心構えでいればよいのでしょうか。
- 私たちは皆、それぞれに賜物や才能を持って生まれてきました。誰もが、共同のリーダーシップに貢献する力を備えているのです

第７日 - 合同礼拝

礼拝のテーマ：「従うようにと呼ばれて」

以下は、YWCA／YMCA が今年の世界祈祷週の期間中、あるいはその締めくくりとして、各地で礼拝を企画する際の指針となるものです。今年のテーマは「このような時にあって、使命を与えられること（Called for Such a Time as This）」です。それぞれの状況に合わせて適宜調整してご活用ください。

0:00 歓迎と導入

使徒言行録 18：24-26

リーダーは参加者を歓迎し、参加者に対して自分が尊敬する人物を思い浮かべるよう促して、礼拝への導入とします。

その人のどのような点が、あなたに尊敬の念を抱かせるのでしょうか。

その人のどのような点が、あなたに「つながりたい」と思わせるのでしょうか。

その人のどのような点が、あなたに「ついていきたい」と思わせるのでしょうか。

リーダーは、自身が尊敬する人物や象徴的な存在について、なぜその人を尊敬しているのかを語り、続いて世界祈祷週のテーマを紹介します。

0:05 開会の祈り

リーダー：命を与える方、神の創造された世界　を支え守る方、そして私たちの世界の救い主であるイエス・キリストから、憐れみと希望、そして確信が、皆さんと共にありますように。
一同：またあなたと共に。
リーダー：今日は、神が語りかけられたその日です。
一同：目的と約束に満ちた人生を、共に祝いましょう。

0:05 歌

『Jesus, Strong and Kind（強く優しいイエス）』／『Jesus Loves Me(イエスは私を愛しておられる)』（Cityalight）
https://youtu.be/zS9w_frp674?si=JGgT0BqPJaJ5u4L0

0:11 イエスの生き方に倣う若者たちのための祈り
ケイラ・クレイグ作 『To Light Their Way(道を照らすために)』 より

神よ、私たちは一つの世代を育てたいと願っています。
私たちを創造された神さまから、とても大きな愛で愛されていることを知る世代を。
あなたの恵みの海は、生涯をかけて泳ぎ切ろうとしても、なお足りないほどです。

若者たちに知ってほしいのです。
たとえつまずき、倒れることがあっても、
自分たちは神の似姿を映し出しているということを。
神によって造られ、知られ、愛されていることを。
若者たちが、あなたが魂の錨（いかり）であることを知ることができますように。
あなたの愛を知ることができますように。
あらゆる問いも、疑いも、恐れも、すべてを包み込む大きな愛を。
イエス・キリストにあって、
罪はきれいに拭い去られ、
私たちは欠けのない完全な者にされたのですから。

若者の持つ信仰、その、好奇心に満ちた開かれた心に感謝します。
それは、私たち大人の多くが、年月と共に失ってしまったものです。
若者たちが最も孤独に感じるとき、慰めを与えてください。
正しいことのために立ち上がる必要があるとき、勇気を与えてください。
助けや慈しみを必要としている人に出会ったとき、思いやりの心を与えてください。

私たちが、若者たちの人間性に敬意をもつことができますように。
あなたが絶えず追い求め、導こうとしておられることを、私たちが心に留めておけますように。
大きな喜びのときも、深い悲しみのときも、私たちが若者たちにあなたを指し示すことができますように。
この地上で若者たちを導くという恵みを与えられている限り、
あなたのもとへと帰る道を共に歩む中で、
すべての星の中に、
そしてすべての雲の中に、あなたを見出すことができますように。
そよ風の中に、
そして足元の大地の中に、あなたを感じることができますように。

若者たちが問いを投げかけられますように。
簡単な答えなどない問いを。
そして、私たちがあなたに根を下ろしていられますように。
若者たちと共に、その神秘の中に留まれるよう、
確かな土台に根を下ろしていられますように。
私たちが共に学び合えるよう、助けてください。
私たちを、あなたの生きた御言葉へと導き、
あなたの真理に目覚めさせてください。
イエス・キリストのお体に宿られた御言葉よ　。
アーメン。

0:13 聖書朗読

参加者の多様な社会的所属を代表する 3 名が、朗読者として選ばれます。

新約聖書 ヨハネによる福音書 10 章 11 節―18 節

11 わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。 12 羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。――狼は羊を奪い、また追い散らす。―― 13 彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。

14 わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。16 わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。17 わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。18 だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。

ヨハネによる福音書 13 章 13 節―17 節

13 あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』とか呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。 14 ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。 15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。 16 はっきり言っておく。僕(しもべ)は主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりはしない。 17 このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。

新約聖書 マルコによる福音書　10 章 45 節

45 人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。

0:18 創造的なアクティビティ

リーダーは、足や靴を使った参加型のアクティビティを進行し、歩くこと・旅をすること・どこかへ向かう途上にあることなどにまつわる考え　を紹介します。

たとえば、靴を片方脱いで高く掲げてみたり、靴のサイズごとにグループを作ってもらったり、誰かと靴を交換してみたり、あるいは足の形に切り抜いた紙に聖句が書かれているものを使ったりというような活動を通して、キリスト教的な生き方は、キリストと共に進み続ける旅であることを表します。

0:25 メッセージ

地元の YWCA／YMCA のリーダーや牧師を招き、聖書朗読箇所の一つを中心箇所として、今年のテーマである「このような時にあって、使命を与えられること」について語ってもらいます。

0:35 心に思い巡らせる時間

リーダーは、メッセージをくださったゲストスピーカーに感謝を伝え、振り返りのひとときに参加者を導きます。ここで、今年の「世界祈祷週」を通して分かち合ってきた、一週間の黙想のテーマを振り返ってみるのも良いでしょう。

ネヘミヤ：壊れたものを修復する使命
デボラ：勇気をもって導く使命
モーセ：不十分さを超える使命
エステル：希望のために声を上げる使命
アビガイル：平和を追い求める使命
プリスキラ：他者のために力を注ぐ使命

礼拝のリーダーは、登場人物たちそれぞれに与えられた、神の働きに連なるユニークで多様な使命　に光を当てます。そして、私たちがそのような使命に従うときに直面しがちな困難に触れ、キリストの招きに応えるには、しばしば大胆さと内面的な成長が必要となることを示唆します。

キリスト教信仰における勇敢な指導者であり英雄であるマーティン・ルーサー・キング・ジュニアは、次のような言葉で知られています。[註５]

「信仰とは、階段全体が見えなくても、最初の一歩を踏み出すことです」。

そして、勇気を「妨げるものがあってもなお前進しようとする、内なる決意」と定義しました。

少しの間静かな時を持ち、思いやりと慈しみに満ちた神に感謝を捧げましょう。そして、神に、また自分自身に、こう問いかけてみてください。

私たちは、ここからどこへ向かうのでしょうか。

キリストとより近く歩むために、どのような障壁があり、どこに架け橋があるのでしょうか。

0:40 歌

『私はイエスに従うと決めた（I Have Decided to Follow Jesus）』　歌：リディア・ウォーカー
https://youtu.be/L7XHeCZB5KU?si=PwZIdtS4cowuTfXW

0:44 イザヤ書 61 章 1〜9 節に基づく祝福の祈り（『The Message』訳より）

リーダー：
主なる神の霊が、私たちの上におられます。
主は、ご自身の恵みの年を告げ知らせるために、私たちを遣わされました。
神の栄光を現す「正義の樫の木」を植え、育てていくために。

古い廃墟を建て直し、荒廃の跡から新しい町を築き上げるために。
確信を持てないとき、神様のうちに、そして神様と共に、歩むべき道を見出すことができる私たちは、なんと幸いなことでしょう。
また、思いやりと憐れみに満ちたキリストを知っている私たちは、なんと幸いなことでしょう。キリストは、従うにふさわしい方です。
主の霊に導かれて、前進していきましょう。
一同：アーメン

0:45 終了

[注５] この引用文はマルティン・ルーサー・キング Jr のものとして有名ですが、彼の説教集、スピーチ集、1968 年の彼の死去より前に出版された記述の中では該当する言葉は見つかっていません。

2027 年 聖書日課

1 月

1 日	詩編 8
2 日	創世記 1:1–13
3 日	詩編 100
4 日	創世記 1:14–25
5 日	創世記 1:26–2:4a
6 日	詩編 72
7 日	創世記 2:4b–17
8 日	創世記 2:18–25
9 日	創世記 3:1–13
10 日	詩編 71
11 日	創世記 3:14–24
12 日	創世記 4:1–16
13 日	創世記 4:17–26
14 日	創世記 5:1–32
15 日	創世記 6:1–4
16 日	創世記 6:5–22
17 日	詩編 105:1–15
18 日	創世記 7:1–16
19 日	創世記 7:17–24
20 日	創世記 8:1–12
21 日	創世記 8:13–22
22 日	創世記 9:1–17
23 日	創世記 9:18–29
24 日	詩編 105:16–45
25 日	ローマの信徒への手紙 1:1–7
26 日	ローマの信徒への手紙 1:8–17
27 日	ローマの信徒への手紙 1:18–23
28 日	ローマの信徒への手紙 1:24–32
29 日	ローマの信徒への手紙 2:1–16
30 日	ローマの信徒への手紙 2:17–29
31 日	詩編 111

2 月

1 日	ローマの信徒への手紙 3:1–20
2 日	ローマの信徒への手紙 3:21–31
3 日	ローマの信徒への手紙 4:1–12
4 日	ローマの信徒への手紙 4:13–25
5 日	ローマの信徒への手紙 5:1–11
6 日	ローマの信徒への手紙 5:12–21
7 日	詩編 60
8 日	ローマの信徒への手紙 6:1–11
9 日	ローマの信徒への手紙 6:12–23
10 日	ローマの信徒への手紙 7:1–6
11 日	ローマの信徒への手紙 7:7–13
12 日	ローマの信徒への手紙 7:14–25
13 日	ローマの信徒への手紙 8:1–17
14 日	詩編 64
15 日	ローマの信徒への手紙 8:18–25
16 日	ローマの信徒への手紙 8:26–30
17 日	ローマの信徒への手紙 8:31–39
18 日	ローマの信徒への手紙 9:1–5
19 日	ローマの信徒への手紙 9:6–13
20 日	ローマの信徒への手紙 9:14–29
21 日	詩編 25
22 日	ローマの信徒への手紙 9:30–10:4
23 日	ローマの信徒への手紙 10:5–15
24 日	ローマの信徒への手紙 10:16–21
25 日	ローマの信徒への手紙 11:1–10
26 日	ローマの信徒への手紙 11:11–24
27 日	ローマの信徒への手紙 11:25–36
28 日	詩編 34

© Copyright 2025 Ökumenische Arbeitsgemeinschaft für Bibellesen – ÖAB. 無断転載を禁じます

2027 年 聖書日課

3月

1 日　ローマの信徒への手紙 12:1–8
2 日　ローマの信徒への手紙 12:9–13
3 日　ローマの信徒への手紙 12:14–21
4 日　ローマの信徒への手紙 13:1–7
5 日　ローマの信徒への手紙 13:8–14
6 日　ローマの信徒への手紙 14:1–9
7 日　詩編 84
8 日　ローマの信徒への手紙 14:10–23
9 日　ローマの信徒への手紙 15:1–13
10 日　ローマの信徒への手紙 15:14–21
11 日　ローマの信徒への手紙 15:22–33
12 日　ローマの信徒への手紙 16:1–16
13 日　ローマの信徒への手紙 16:17–27
14 日　詩編 69:1–16
15 日　マタイによる福音書 26:1–16
16 日　マタイによる福音書 26:17–30
17 日　マタイによる福音書 26:31–35
18 日　マタイによる福音書 26:36–46
19 日　マタイによる福音書 26:47–56
20 日　マタイによる福音書 26:57–68
21 日　詩編 69:17–37
22 日　マタイによる福音書 26:69–75
23 日　マタイによる福音書 27:1–14
24 日　マタイによる福音書 27:15–30
25 日　マタイによる福音書 27:31–44
26 日　マタイによる福音書 27:45–56
27 日　マタイによる福音書 27:57–66
28 日　マタイによる福音書 28:1–10
29 日　マタイによる福音書 28:11–20
30 日　サムエル記上 1:1–20
31 日　サムエル記上 1:21–2:11

4月

1 日　サムエル記上 2:12–26
2 日　サムエル記上 2:27–36
3 日　サムエル記上 3:1–4:1a
4 日　詩編 116
5 日　サムエル記上 4:1b–11
6 日　サムエル記上 4:12–22
7 日　サムエル記上 5:1–12
8 日　サムエル記上 6:1–7:1
9 日　サムエル記上 7:2–17
10 日　サムエル記上 8:1–22
11 日　詩編 23
12 日　サムエル記上 9:1–14
13 日　サムエル記上 9:15–10:16
14 日　サムエル記上 10:17–27
15 日　サムエル記上 11:1–15
16 日　サムエル記上 12:6–25
17 日　サムエル記上 13:1–23
18 日　詩編 33
19 日　サムエル記上 14:1–15
20 日　サムエル記上 15:1–35
21 日　サムエル記上 16:1–13
22 日　サムエル記上 16:14–23
23 日　サムエル記上 17:1–30
24 日　サムエル記上 17:31–58
25 日　詩編 108
26 日　サムエル記上 18:1–16
27 日　サムエル記上 20:1–23
28 日　サムエル記上 20:24–21:1
29 日　サムエル記上 21:2–10
30 日　サムエル記上 24:1–23

2027年 聖書日課

5月

1日　サムエル記上 25:1–17
2日　詩編 62
3日　サムエル記上 25:18–44
4日　サムエル記上 27:1–28:2
5日　サムエル記上 28:3–25
6日　詩編 110
7日　サムエル記上 30:1–31
8日　サムエル記上 31:1–13
9日　詩編 27
10日　フィリピの信徒への手紙 1:1–11
11日　フィリピの信徒への手紙 1:12–26
12日　フィリピの信徒への手紙 1:27–30
13日　フィリピの信徒への手紙 2:1–4
14日　フィリピの信徒への手紙 2:5–11
15日　フィリピの信徒への手紙 2:12–18
16日　創世記 11:1–9
17日　詩編 150
18日　フィリピの信徒への手紙 2:19–30
19日　フィリピの信徒への手紙 3:1–11
20日　フィリピの信徒への手紙 3:12–21
21日　フィリピの信徒への手紙 4:1–9
22日　フィリピの信徒への手紙 4:10–23
23日　詩編 113
24日　トビト記 1:1–14
25日　トビト記 1:15–22
26日　トビト記 2:1–10
27日　トビト記 2:11–3:6
28日　トビト記 3:7–17
29日　トビト記 4:1–21
30日　詩編 115
31日　トビト記 5:1–17a

6月

1日　トビト記 5:17b–23
2日　トビト記 6:1–19
3日　トビト記 7:1–17
4日　トビト記 8:10–21
5日　トビト記 9:1–6
6日　詩編 10
7日　トビト記 10:1–14
8日　トビト記 11:1–18
9日　トビト記 12:1–22
10日　トビト記 13:1–9
11日　トビト記 13:10–18
12日　トビト記 14:1–15
13日　詩編 103
14日　マタイによる福音書 4:18–25
15日　マタイによる福音書 5:1–12
16日　マタイによる福音書 5:13–16
17日　マタイによる福音書 5:17–20
18日　マタイによる福音書 5:21–26
19日　マタイによる福音書 5:27–32
20日　詩編 83:2–9, 14–19
21日　マタイによる福音書 5:33–37
22日　マタイによる福音書 5:38–48
23日　マタイによる福音書 6:1–4
24日　マタイによる福音書 6:5–15
25日　マタイによる福音書 6:16–18
26日　マタイによる福音書 6:19–24
27日　詩編 101
28日　マタイによる福音書 6:25–34
29日　マタイによる福音書 7:1–6
30日　マタイによる福音書 7:7–11

2027 年 聖書日課

7月

1 日　マタイによる福音書 7:12–23
2 日　マタイによる福音書 7:24–29
3 日　マタイによる福音書 8:1–4
4 日　詩編 82
5 日　マタイによる福音書 8:5–13
6 日　マタイによる福音書 8:14–17
7 日　マタイによる福音書 8:18–22
8 日　マタイによる福音書 8:23–27
9 日　マタイによる福音書 8:28–34
10 日　マタイによる福音書 9:1–8
11 日　詩編 107:1–22
12 日　マタイによる福音書 9:9–13
13 日　マタイによる福音書 9:14–17
14 日　マタイによる福音書 9:18–26
15 日　マタイによる福音書 9:27–34
16 日　マタイによる福音書 9:35–10:4
17 日　マタイによる福音書 10:5–15
18 日　詩編 107:23–43
19 日　マタイによる福音書 10:16–26a
20 日　マタイによる福音書 10:26b–33
21 日　マタイによる福音書 10:34–42
22 日　マタイによる福音書 11:1–19
23 日　マタイによる福音書 11:20–24
24 日　マタイによる福音書 11:25–30
25 日　詩編 63
26 日　マタイによる福音書 12:1–14
27 日　マタイによる福音書 12:15–21
28 日　マタイによる福音書 12:22–32
29 日　マタイによる福音書 12:33–37
30 日　マタイによる福音書 12:38–42
31 日　マタイによる福音書 12:43–45

8月

1 日　詩編 74
2 日　マタイによる福音書 12:46–50
3 日　マタイによる福音書 13:1–9, 18–23
4 日　マタイによる福音書 13:10–17
5 日　マタイによる福音書 13:24–30, 36–43
6 日　マタイによる福音書 13:31–35
7 日　マタイによる福音書 13:44–46
8 日　詩編 30
9 日　マタイによる福音書 13:47–52
10 日　マタイによる福音書 13:53–58
11 日　マタイによる福音書 14:1–12
12 日　マタイによる福音書 14:13–21
13 日　マタイによる福音書 14:22–36
14 日　マタイによる福音書 15:1–20
15 日　詩編 79
16 日　マタイによる福音書 15:21–28
17 日　マタイによる福音書 15:29–39
18 日　マタイによる福音書 16:1–12
19 日　マタイによる福音書 16:13–20
20 日　マタイによる福音書 16:21–28
21 日　マタイによる福音書 17:1–13
22 日　詩編 112
23 日　マタイによる福音書 17:14–21
24 日　マタイによる福音書 17:22–27
25 日　マタイによる福音書 18:1–14
26 日　マタイによる福音書 18:15–20
27 日　マタイによる福音書 18:21–35
28 日　マタイによる福音書 19:1–12
29 日　詩編 78:1–31
30 日　マタイによる福音書 19:13–15
31 日　マタイによる福音書 19:16–30

© Copyright 2025 Ökumenische Arbeitsgemeinschaft für Bibellesen – ÖAB. 無断転載を禁じます

2027 年 聖書日課

9月

1 日　マタイによる福音書 20:1–16
2 日　マタイによる福音書 20:17–28
3 日　マタイによる福音書 20:29–34
4 日　マタイによる福音書 21:1–11
5 日　詩編 78:32–55
6 日　マタイによる福音書 21:12–17
7 日　マタイによる福音書 21:18–22
8 日　マタイによる福音書 21:23–27
9 日　マタイによる福音書 21:28–32
10 日　マタイによる福音書 21:33–46
11 日　マタイによる福音書 22:1–14
12 日　詩編 78:56–72
13 日　マタイによる福音書 22:15–22
14 日　マタイによる福音書 22:23–33
15 日　マタイによる福音書 22:34–46
16 日　マタイによる福音書 23:1–12
17 日　マタイによる福音書 23:13–28
18 日　マタイによる福音書 23:29–39
19 日　詩編 114
20 日　サムエル記下 1:17–27
21 日　サムエル記下 2:1–11
22 日　サムエル記下 5:1–16
23 日　サムエル記下 5:17–25
24 日　サムエル記下 6:1–23
25 日　サムエル記下 7:1–16
26 日　詩編 4
27 日　サムエル記下 7:17–29
28 日　サムエル記下 11:1–27
29 日　サムエル記下 12:1–25
30 日　サムエル記下 15:1–12

１０月

1 日　サムエル記下 15:13–37
2 日　サムエル記下 16:1–14
3 日　詩編 104
4 日　サムエル記下 16:15–17:4
5 日　サムエル記下 17:5–23
6 日　サムエル記下 18:1–18
7 日　サムエル記下 18:19–19:9a
8 日　サムエル記下 19:9b–41
9 日　サムエル記下 21:1–14
10 日　詩編 119:1–8
11 日　サムエル記下 23:1–7
12 日　サムエル記下 24:1–25
13 日　箴言 10:1–10
14 日　箴言 10:11–21
15 日　箴言 10:22–32
16 日　箴言 11:24–31
17 日　詩編 19
18 日　箴言 14:29–34
19 日　箴言 15:13–18
20 日　箴言 16:1–9
21 日　箴言 17:1–17
22 日　箴言 18:8–17
23 日　箴言 19:16–23
24 日　詩編 16
25 日　箴言 20:19–24
26 日　箴言 24:10–20
27 日　オバデヤ書 1–21
28 日　ナホム書 1:1–14
29 日　ナホム書 2:1–14
30 日　ナホム書 3:1–19
31 日　詩編 22:1–22

© Copyright 2025 Ökumenische Arbeitsgemeinschaft für Bibellesen – ÖAB. 無断転載を禁じます

2027 年 聖書日課

１１月

1 日　ヤコブの手紙 1:1–12
2 日　ヤコブの手紙 1:13–18
3 日　ヤコブの手紙 1:19–27
4 日　ヤコブの手紙 2:1–13
5 日　ヤコブの手紙 2:14–26
6 日　ヤコブの手紙 3:1–12
7 日　詩編 22:23–32
8 日　ヤコブの手紙 3:13–18
9 日　ヤコブの手紙 4:1–12
10 日　ヤコブの手紙 4:13–17
11 日　ヤコブの手紙 5:1–6
12 日　ヤコブの手紙 5:7–12
13 日　ヤコブの手紙 5:13–20
14 日　詩編 70
15 日　マタイによる福音書 24:1–14
16 日　マタイによる福音書 24:15–28
17 日　マタイによる福音書 24:29–31
18 日　マタイによる福音書 24:32–44
19 日　マタイによる福音書 24:45–51
20 日　マタイによる福音書 25:1–13
21 日　詩編 126
22 日　マタイによる福音書 25:14–30
23 日　マタイによる福音書 25:31–46
24 日　イザヤ書 40:1–11
25 日　イザヤ書 40:12–31
26 日　イザヤ書 41:1–7
27 日　イザヤ書 41:8–20
28 日　詩編 117
29 日　イザヤ書 42:1–9
30 日　イザヤ書 42:10–25

１２月

1 日　イザヤ書 43:1–7
2 日　イザヤ書 43:8–13
3 日　イザヤ書 43:14–21
4 日　イザヤ書 43:22–28
5 日　詩編 80
6 日　イザヤ書 44:1–5
7 日　イザヤ書 44:6–20
8 日　イザヤ書 44:21–28
9 日　イザヤ書 45:1–8
10 日　イザヤ書 45:9–17
11 日　イザヤ書 45:18–25
12 日　詩編 85
13 日　イザヤ書 46:1–13
14 日　イザヤ書 48:1–11
15 日　イザヤ書 48:12–22
16 日　イザヤ書 49:1–6
17 日　イザヤ書 49:7–13
18 日　イザヤ書 49:14–26
19 日　詩編 40
20 日　イザヤ書 50:4–11
21 日　イザヤ書 51:1–8
22 日　イザヤ書 51:9–16
23 日　イザヤ書 51:17–52:6
24 日　イザヤ書 52:7–12
25 日　ルカによる福音書 1:46–55
26 日　ルカによる福音書 2:29–32
27 日　イザヤ書 52:13–53:5
28 日　イザヤ書 53:6–12
29 日　イザヤ書 54:1–10
30 日　イザヤ書 55:1–5
31 日　イザヤ書 55:6–13

© Copyright 2025 Ökumenische Arbeitsgemeinschaft für Bibellesen – ÖAB. 無断転載を禁じます

謝辞

コンテンツおよび編集における多大な貢献に対し、以下の方々に感謝申し上げます。

- Dr Claire Rush(編集責任者、YWCA アイルランド CEO/総幹事)
- Alex Batholomew
- Emma Bowie
- Lisa Garcia
- Anna Mądrakowska
- Myrtle Morrison

以下の方々の貢献にも、心より感謝いたします。

- スペイン語翻訳：Manuel Quintero
- フランス語翻訳：Jean-François Delteil
- デザイン：Riju Manandhar（世界 YWCA デジタル・コミュニケーション・コーディネーター)

最終内容確認:

- Andrew Dickson（アイルランド長老教会）
- Casey Harden（世界 YWCA CEO/総幹事)
- Fanie Carole Jipguep Temi（世界 YWCA 臨時事務アシスタント)
- Carlos Sanvee（世界 YMCA 総主事)
- John Phillips（世界 YMCA コミュニケーション・ディレクター)
- Duncan Chowdhury（世界 YMCA ガバナンス・マネージャー)

調整・監修:

- BJ McDuffie（世界 YWCA エンゲージメント&インパクト・主任担当)
- Caterina Lemp Bitsacopoulos(世界 YWCA ムーブメント&キャパシティビルディング・アカウンタビリティ担当ディレクター)

聖書通読計画:

- 内容責任者：Dr. Jutta Henner（聖書通読のためのエキュメニカル作業部会長、Caroline-Michaelis-Str. Berlin。

聖書の引用は、新改訂標準訳(NRSV)による。（日本語訳は、原則として新共同訳聖書を引用。）
免責事項:この冊子の中で各寄稿者が述べている見解は、必ずしも世界 YWCA または世界 YMCA の立場を反映するものではありません。この冊子に掲載されているイラストは、世界 YWCA・世界 YMCA 祈祷週間の目的にのみ使用しなければなりません。

L'Ancienne-Route 16, 1218 Le Grand-Saconnex Geneva–Switzerland
www.worldywca.org
Twitter & Instagram: @worldywca
Facebook: https://www.facebook.com/worldywca/

Chemin de Mouille-Galand 1, 1214 Vernier Geneva–Switzerland
www.ymca.int
Twitter & Instagram: @WorldYMCA
Facebook: https://www.facebook.com/ymcas

※この冊子は、非営利的な目的であれば、どのメディアでも、全体をそのまま変更せずに、World YMCA と World YWCA にクレジットを付けて配布することができます。

世界 YWCA/YMCA 合同祈祷週 2026（日本語版）

2026 年 10 月 30 日発行
訳　者：雀部真理（日本 YWCA）
発行者：公益財団法人日本 YWCA　〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台 1-8-11
電話（03）3292-6121
公益財団法人日本 YMCA 同盟　〒160-0003　東京都新宿区四谷本塩町 2 番 11 号
電話（03）5367-6640